

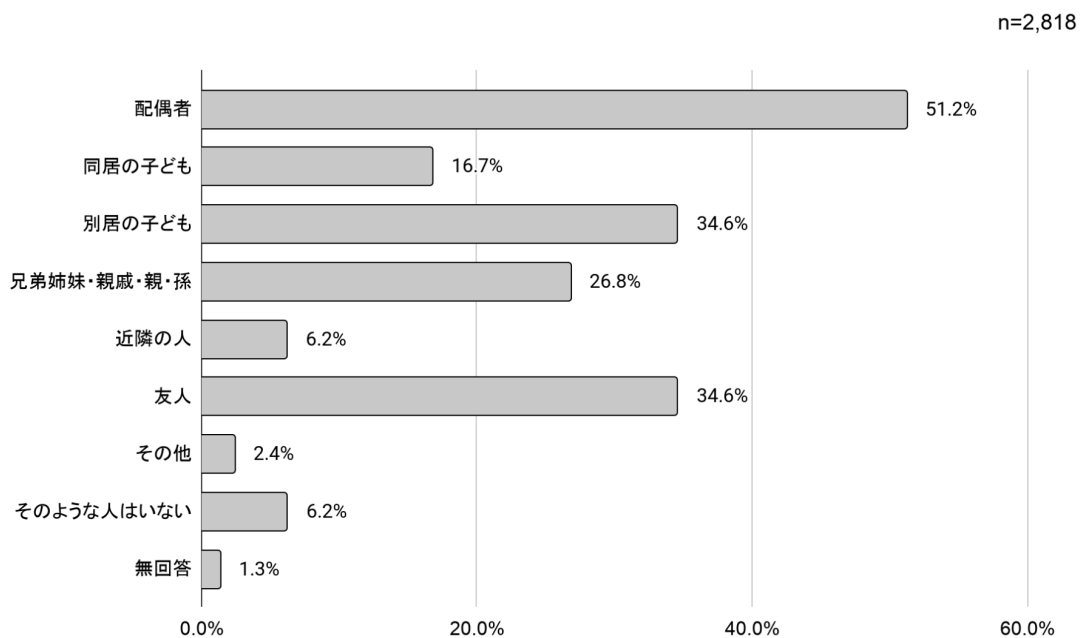
## 2. 7 たすけあいについて

### 問7-1 心配事などを聞いてくれる人【65歳以上】（複数回答）

あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

心配事や愚痴を聞いてくれる人は誰かを尋ねたところ、「配偶者」（51.2%）が最も多く、次いで「別居の子ども」「友人」（34.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（26.8%）となっている。

### 問7-1 心配事などを聞いてくれる人【65歳以上】（複数回答）

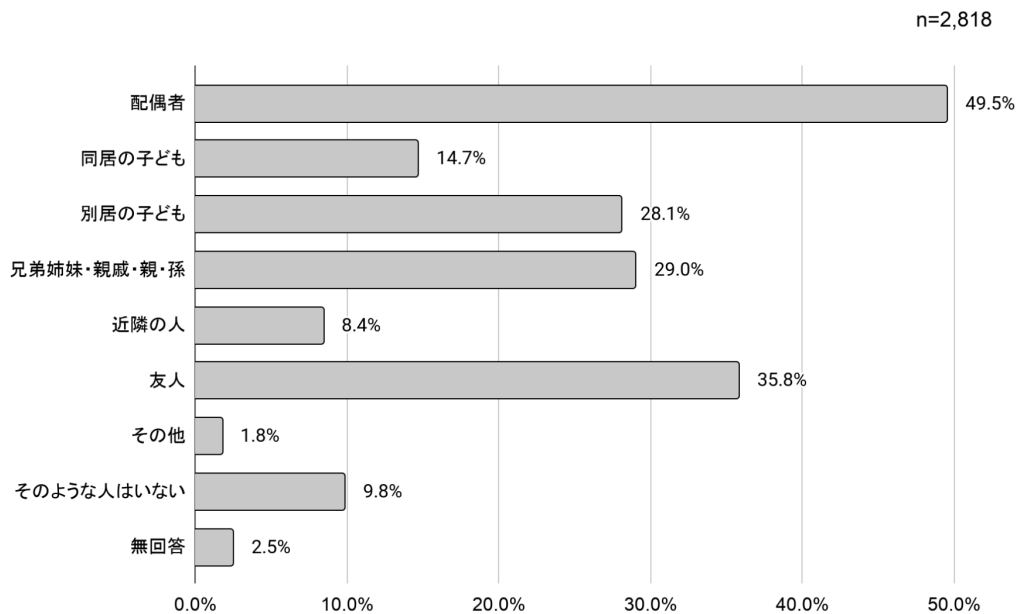


## 問7-2 心配事などを聞いてあげる人【65歳以上】（複数回答）

反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

心配事や愚痴を聞いてあげる人は誰か尋ねたところ、「配偶者」（49.5%）が最も多く、次いで「友人」（35.8%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（29.0%）となっている。

## 問7-2 心配事などを聞いてあげる人【65歳以上】（複数回答）

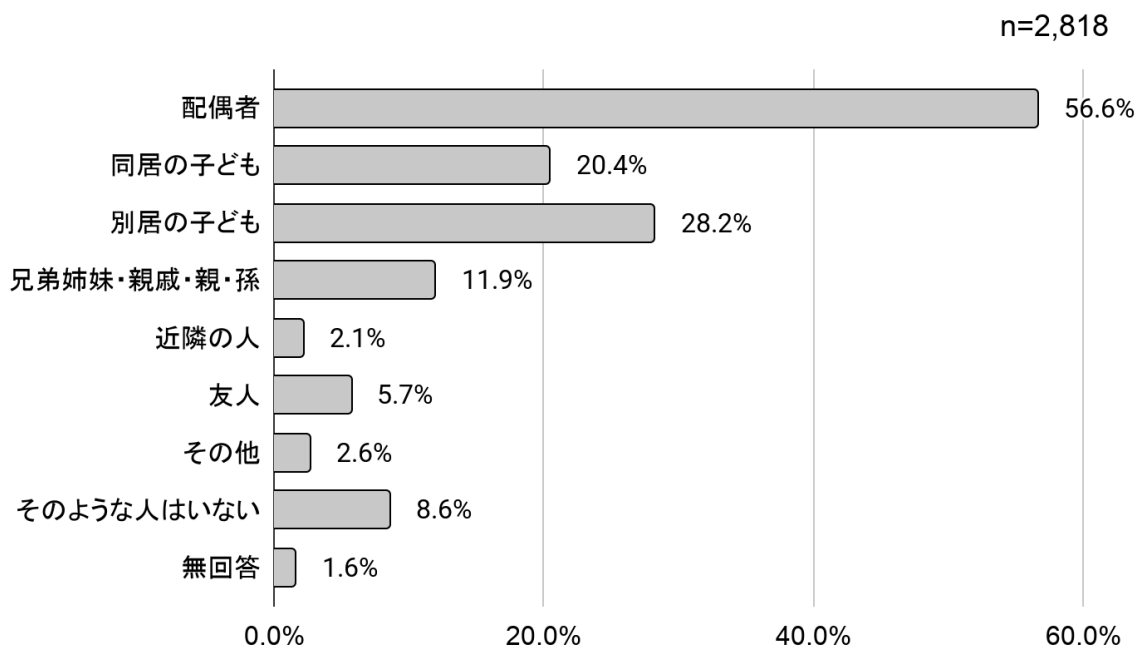


### 問7-3 看病などをしてくれる人【65歳以上】（複数回答）

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

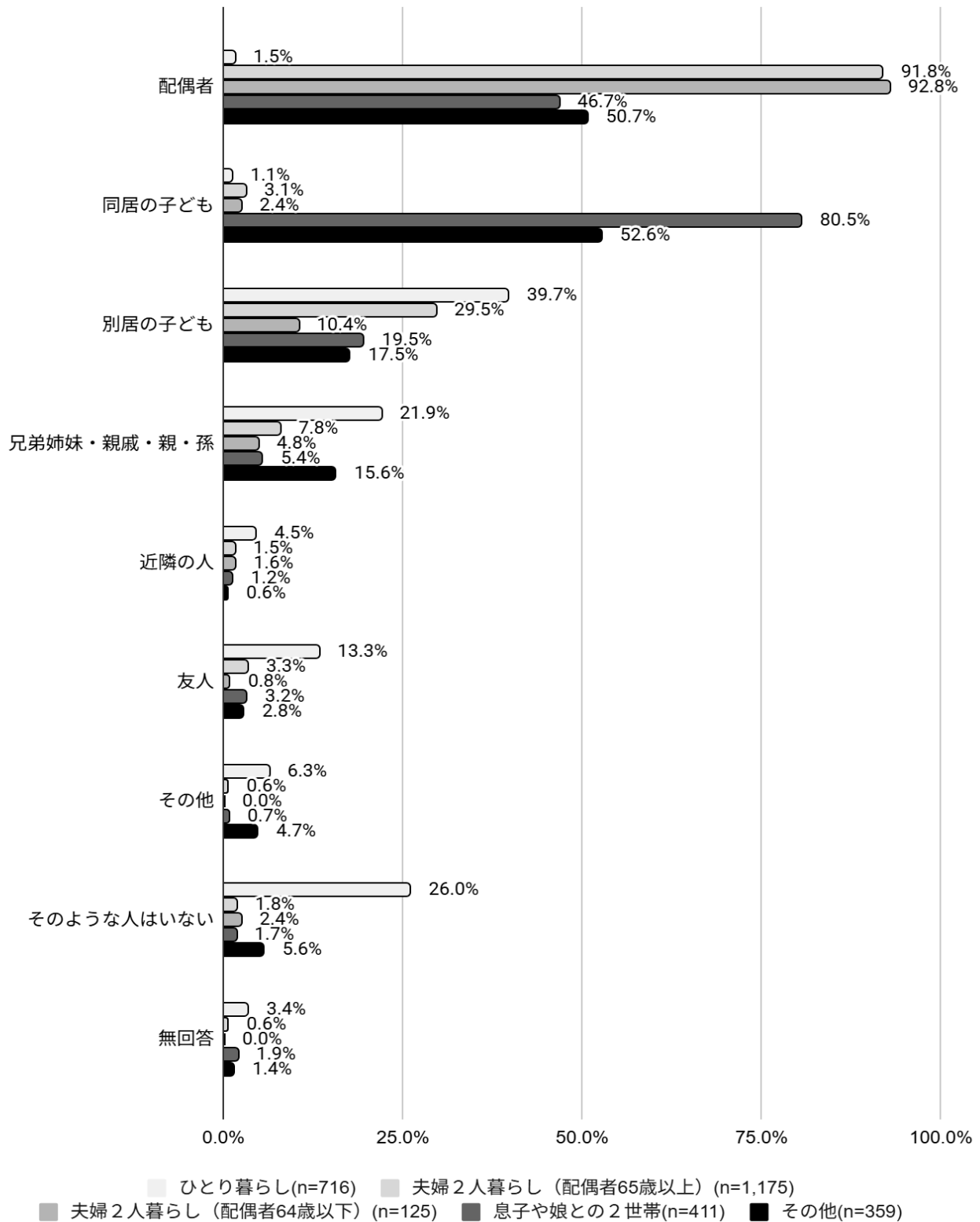
病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は誰かを尋ねたところ、「配偶者」（56.6%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（28.2%）、「同居の子ども」（20.4%）となっている。

#### 問7-3 看病などをしてくれる人【65歳以上】（複数回答）



家族構成別にみると、「ひとり暮らし」は「別居の子ども」（39.7%）が最も多く、「夫婦2人暮らし」ではいずれも「配偶者」が90.0%を超えており、「息子や娘との2世帯」では「同居の子ども」（80.5%）が最も多くなっている。

問7-3 看病などをしてくれる人【65歳以上】（複数回答）  
× 問2-1 家族構成

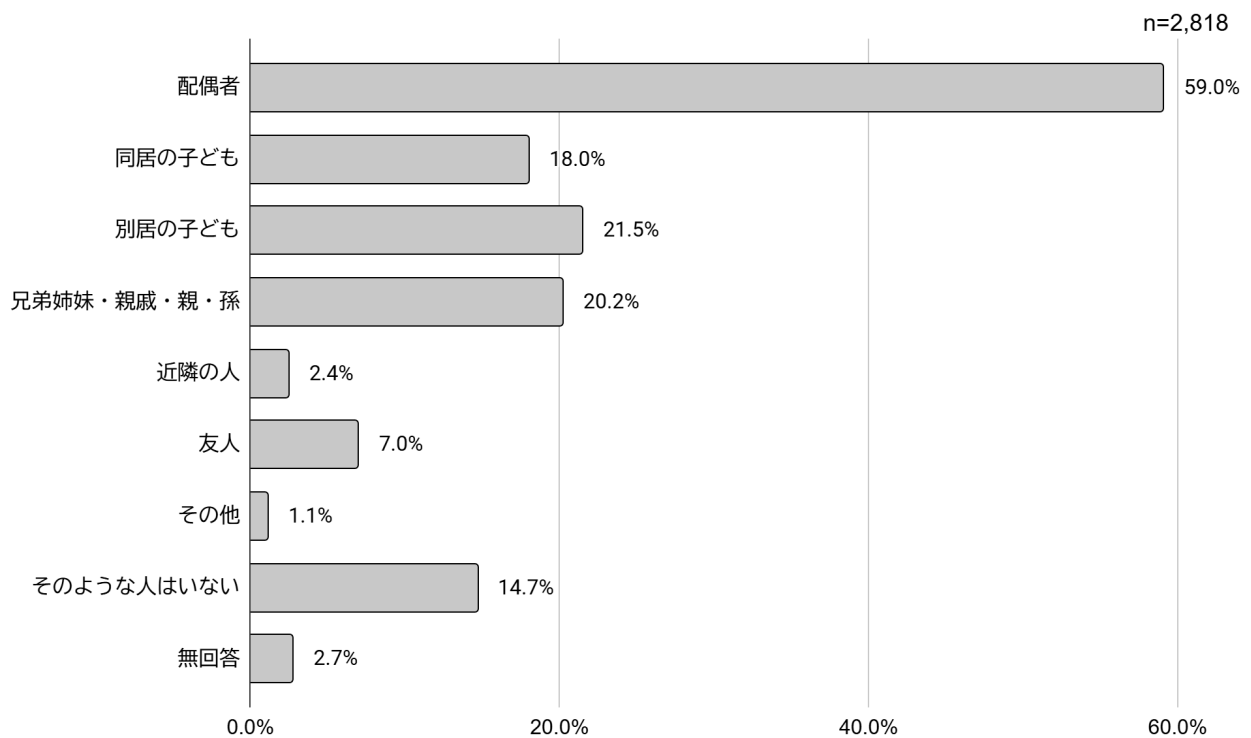


### 問7-4 看病などをしてあげる人【65歳以上】（複数回答）

反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

看病や世話をしてあげる人は誰かを尋ねたところ、「配偶者」（59.0%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（21.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（20.2%）となっている。

問7-4 看病などをしてあげる人【65歳以上】（複数回答）

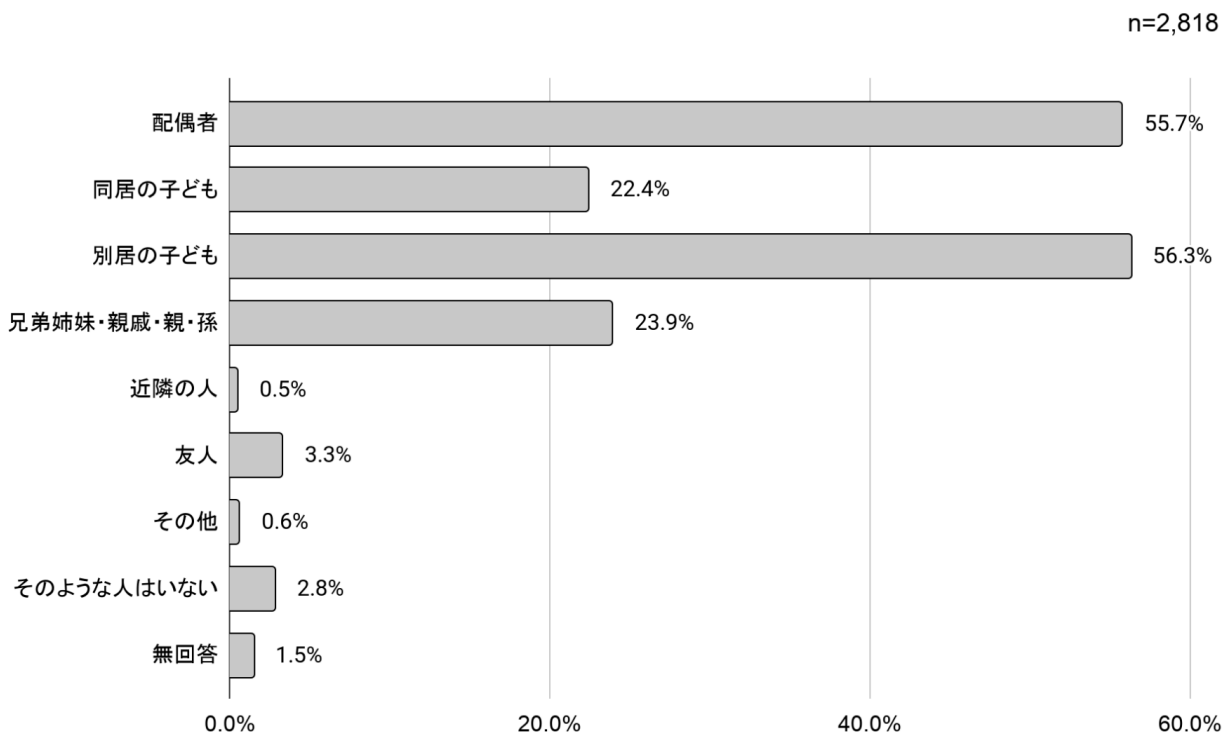


## 問7-5 身元を保証してくれる人【65歳以上】（複数回答）

あなたが入院・介護施設等の入所・転居に際して身元を保証してくれる人※はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

身元を保証してくれる人は誰かを尋ねたところ、「別居の子ども」（56.3%）が最も多く、次いで「配偶者」（55.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（23.9%）となっている。

## 問7-5 身元を保証してくれる人【65歳以上】（複数回答）



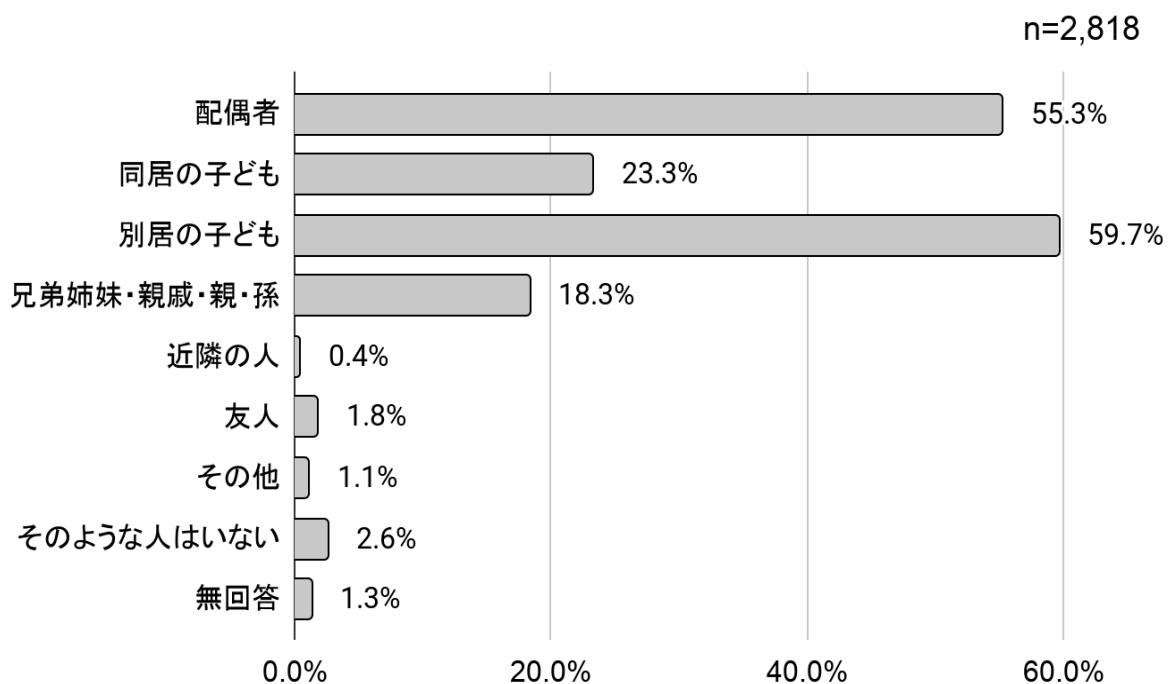
※ここでいう身元を保証してくれる人とは、緊急時の連絡、各種手続きの支援、費用の支払いなどについて保証してくれる方をいう。

### 問7-6 亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人【65歳以上】（複数回答）

あなたが亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人は誰かを尋ねたところ、「別居の子ども」（59.7%）が最も多く、次いで「配偶者」（55.3%）、「同居の子ども」（23.3%）となっている。

### 問7-6 亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人【65歳以上】（複数回答）



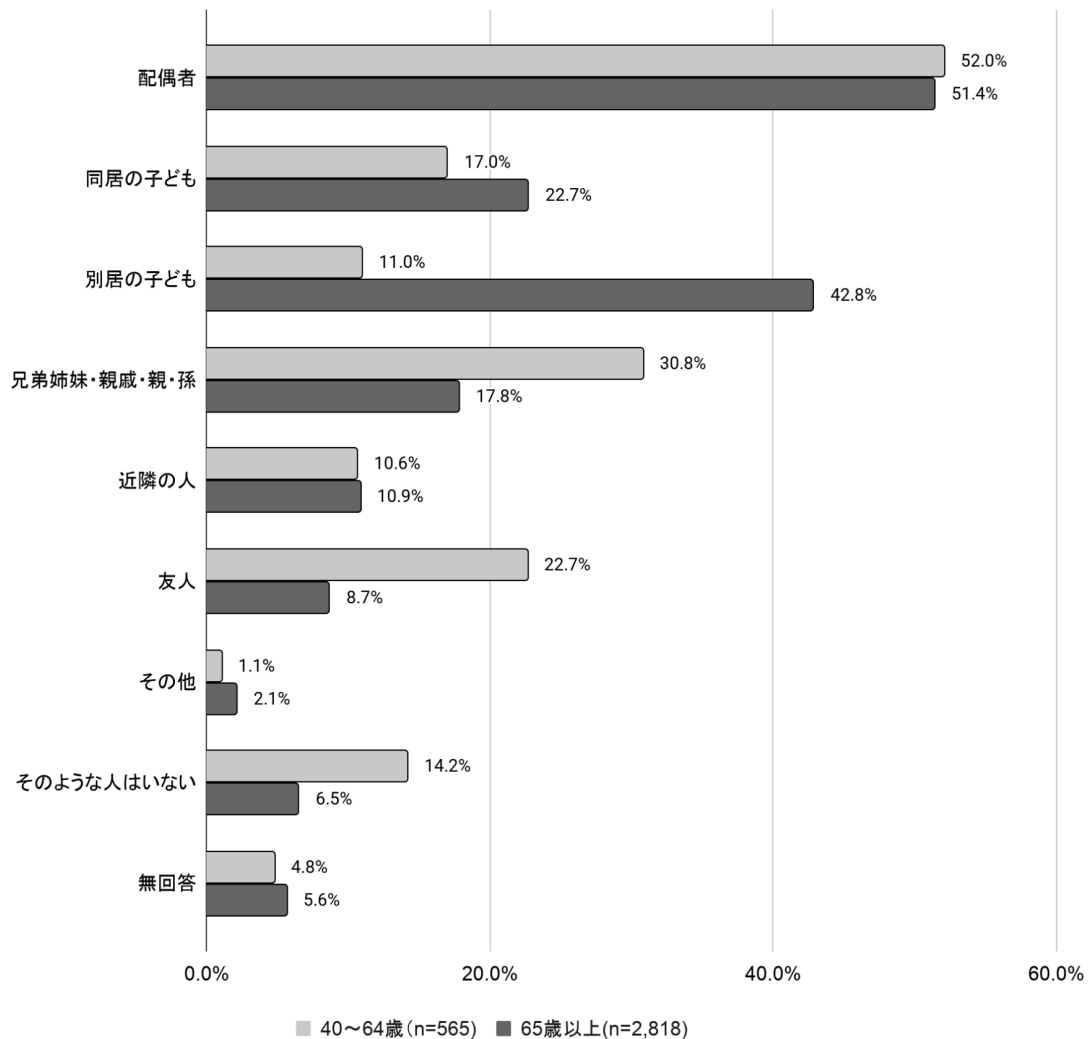
## 問7-7 避難警報発令時の避難行動（複数回答）

大雨洪水警報が発令された時など避難が必要な場合に、現在頼れる人及び将来的に頼りたい人は誰ですか。当てはまるすべての枠の中に○を記入してください。

大雨洪水警報が発令された時など避難が必要な場合に、現在頼れる人を尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「配偶者」の割合が多くなっており、64歳以下は52.0%、65歳以上で51.4%となっている。次いで、64歳以下では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（30.8%）、65歳以上では「別居の子ども」（42.8%）の割合が多くなっている。

## 問7-7 避難警報発令時の避難行動（複数回答）

## 【現在頼れる人】

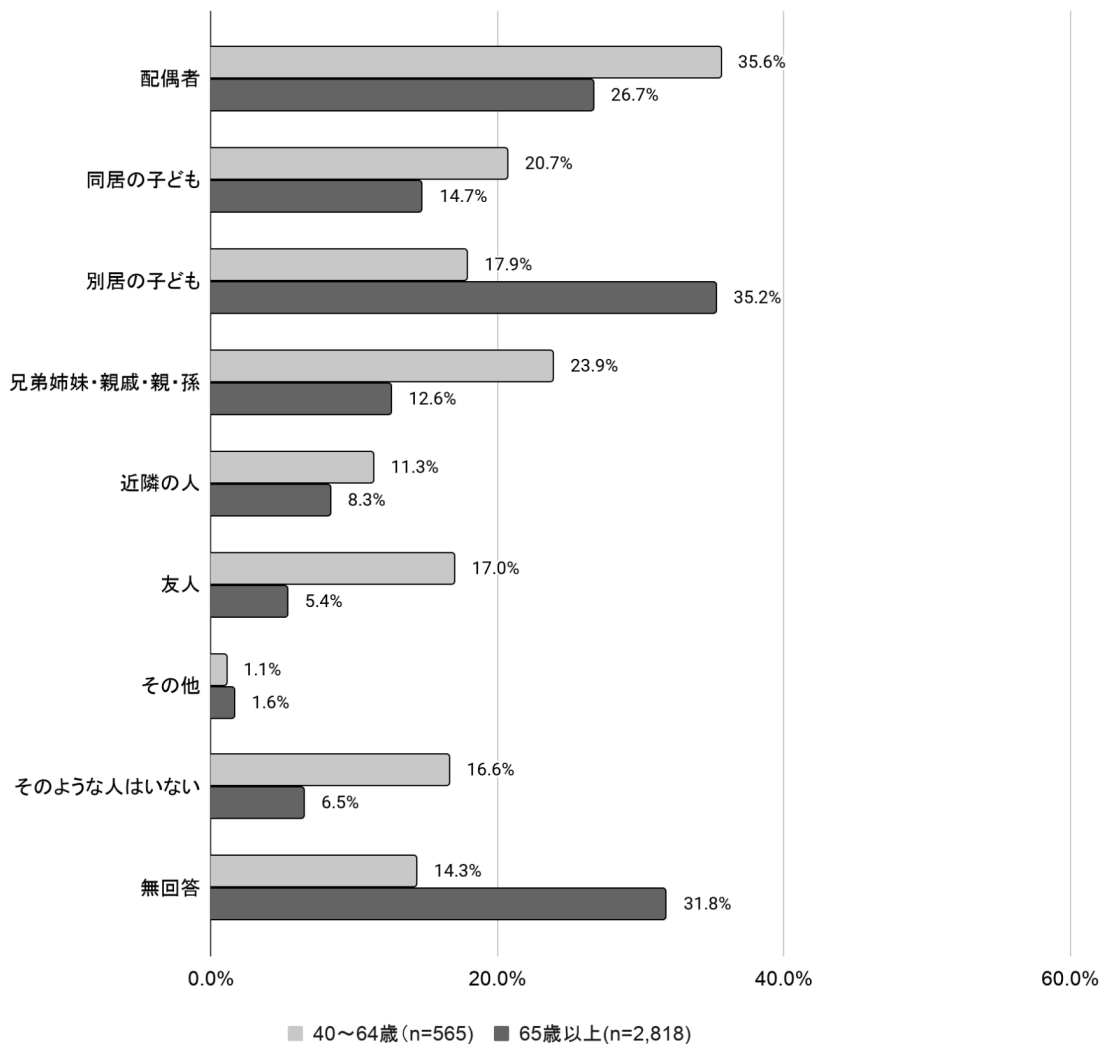


## 2 調査結果（たすけあいについて）

将来的に頼りたい人については、64歳以下では「配偶者」（35.6%）の割合が最も多くなっている。一方、65歳以上では「別居の子ども」（35.2%）の割合が最も多くなっている。

### 問7-7 避難警報発令時の避難行動（複数回答）

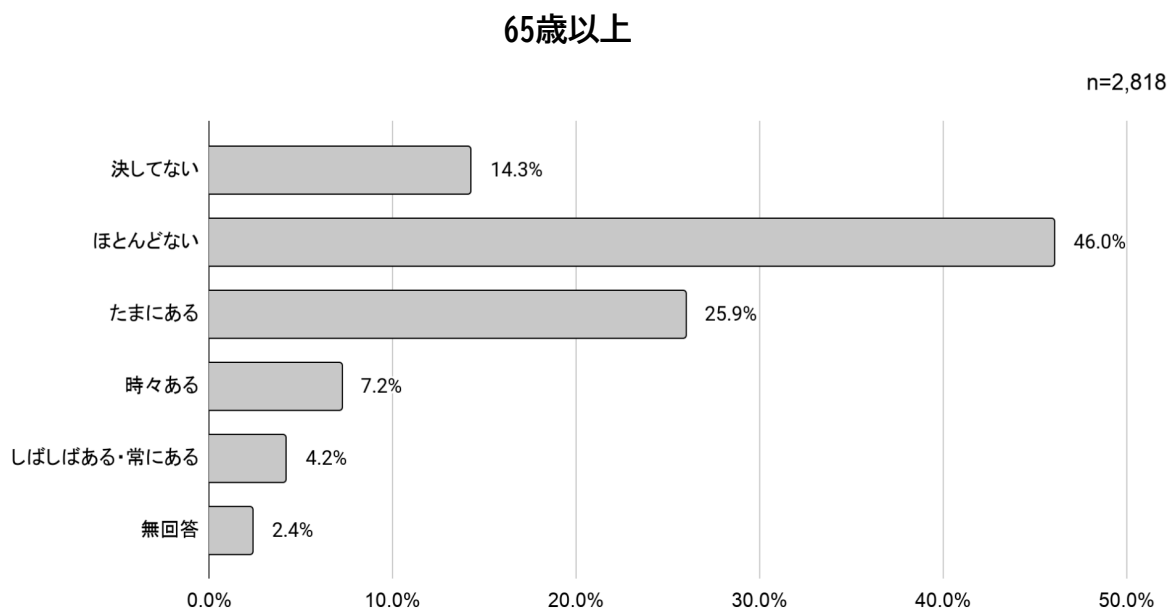
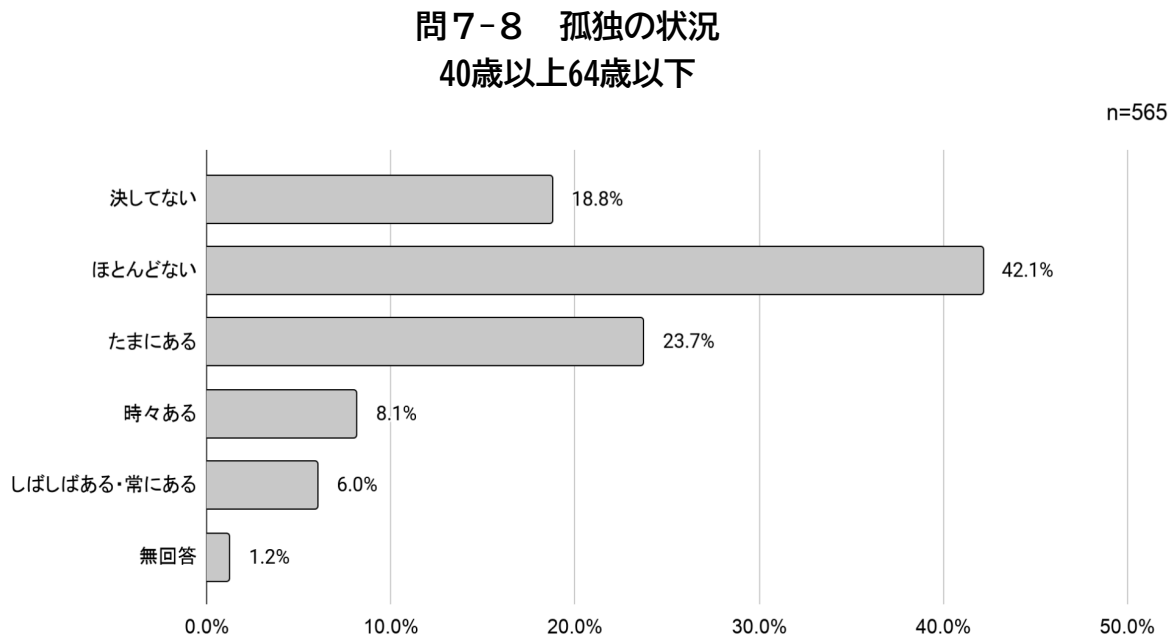
#### 【将来的に頼りたい人】



## 問7-8 孤独の状況

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

孤独の状況について尋ねたところ、「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が、64歳以下は60.9%、65歳以上は60.3%となっている。一方、「しばしばある・常にある」「時々ある」を合わせた割合は、64歳以下は14.1%、65歳以上は11.4%となっている。

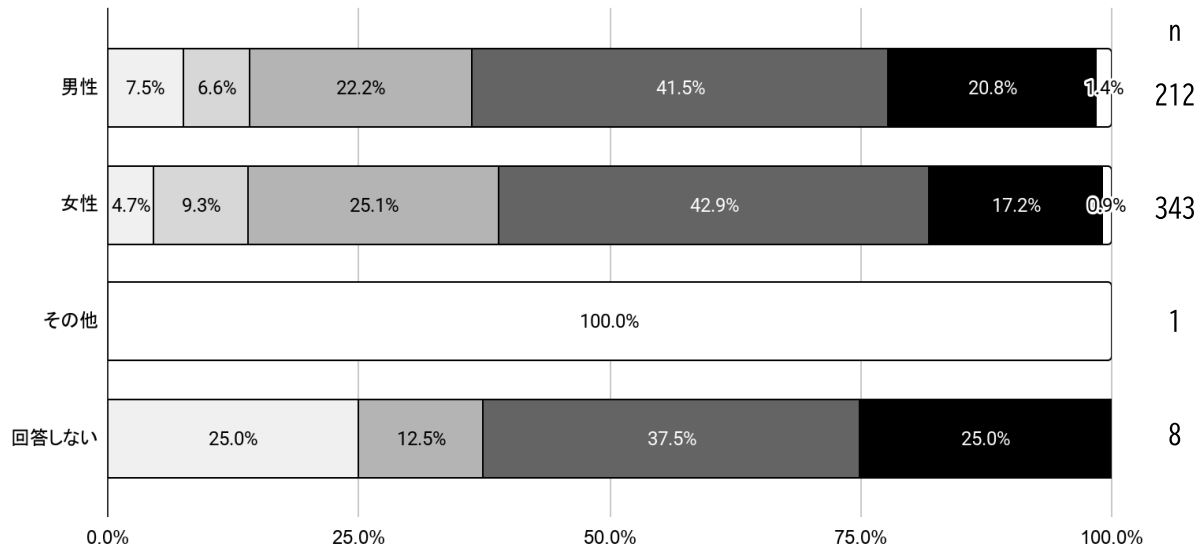


2 調査結果（たすけあいについて）

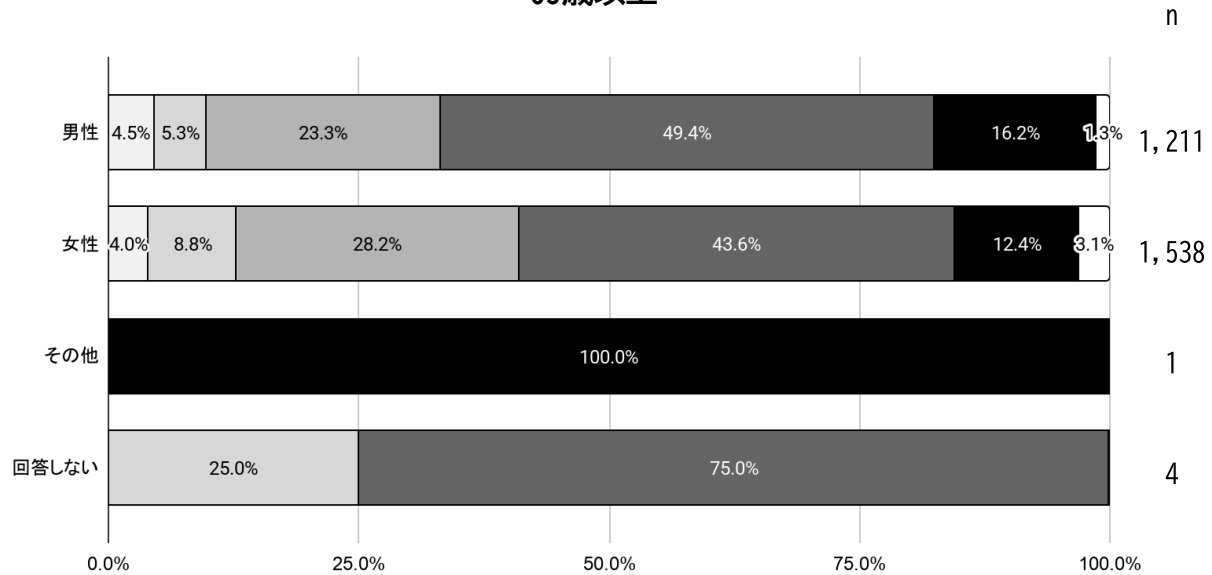
性別ごとにみると、64歳以下は、男性、女性ともに「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えている。65歳以上は、すべての性別において「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えている。

問7-8 孤独の状況 × 問1-3 性別

40歳以上64歳以下



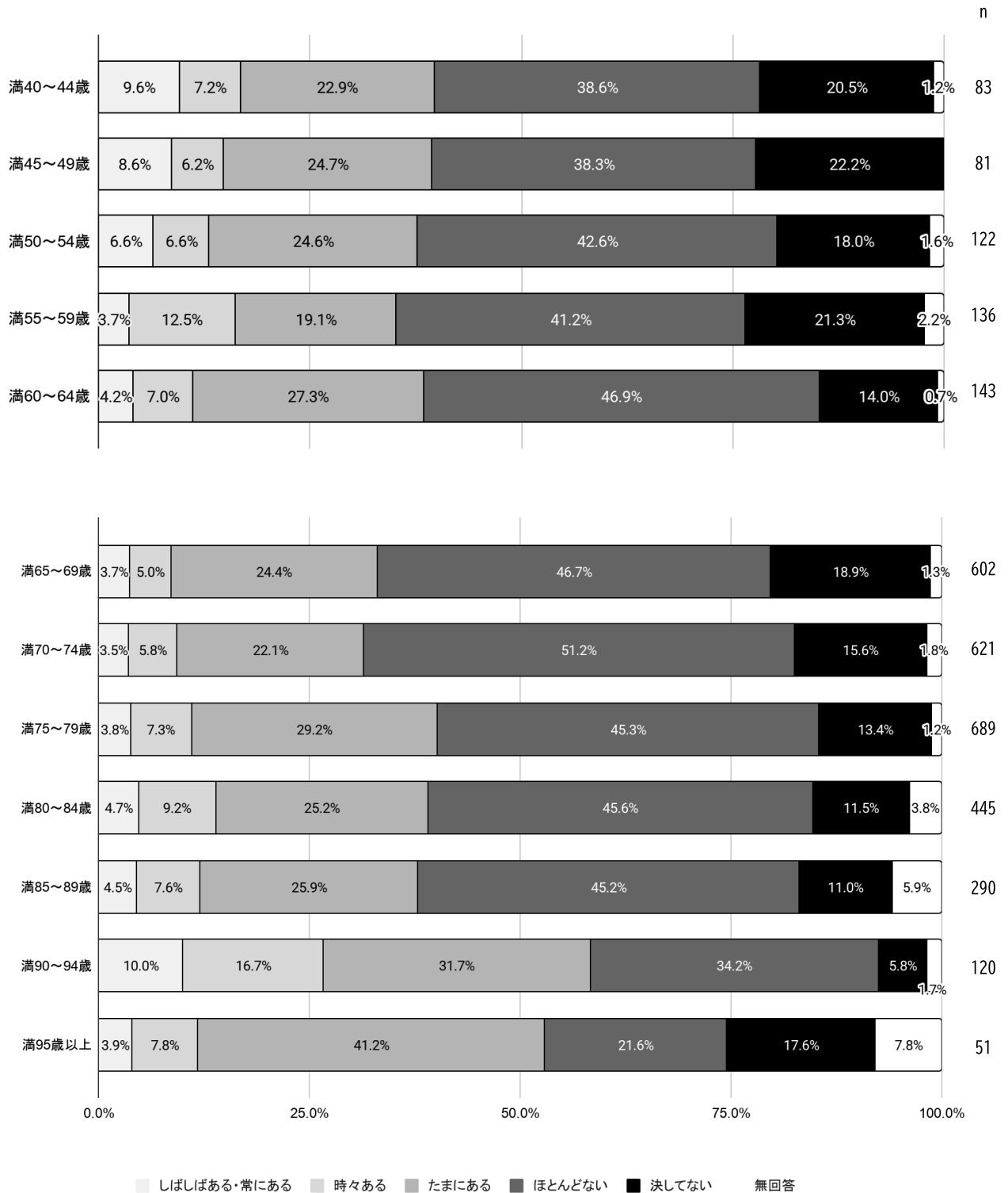
65歳以上



しばしばある・常にある
 
 時々ある
 
 たまにある
 
 ほとんどない
 
 決してない
 
 無回答

年齢別にみると、「満40～44歳」から「満85～89歳」までの年齢では「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えている。一方、「満75～79歳」以降は年齢が上がるにつれて「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が減少傾向にあり、「満90～94歳」「満95歳以上」では、50.0%を下回っている。

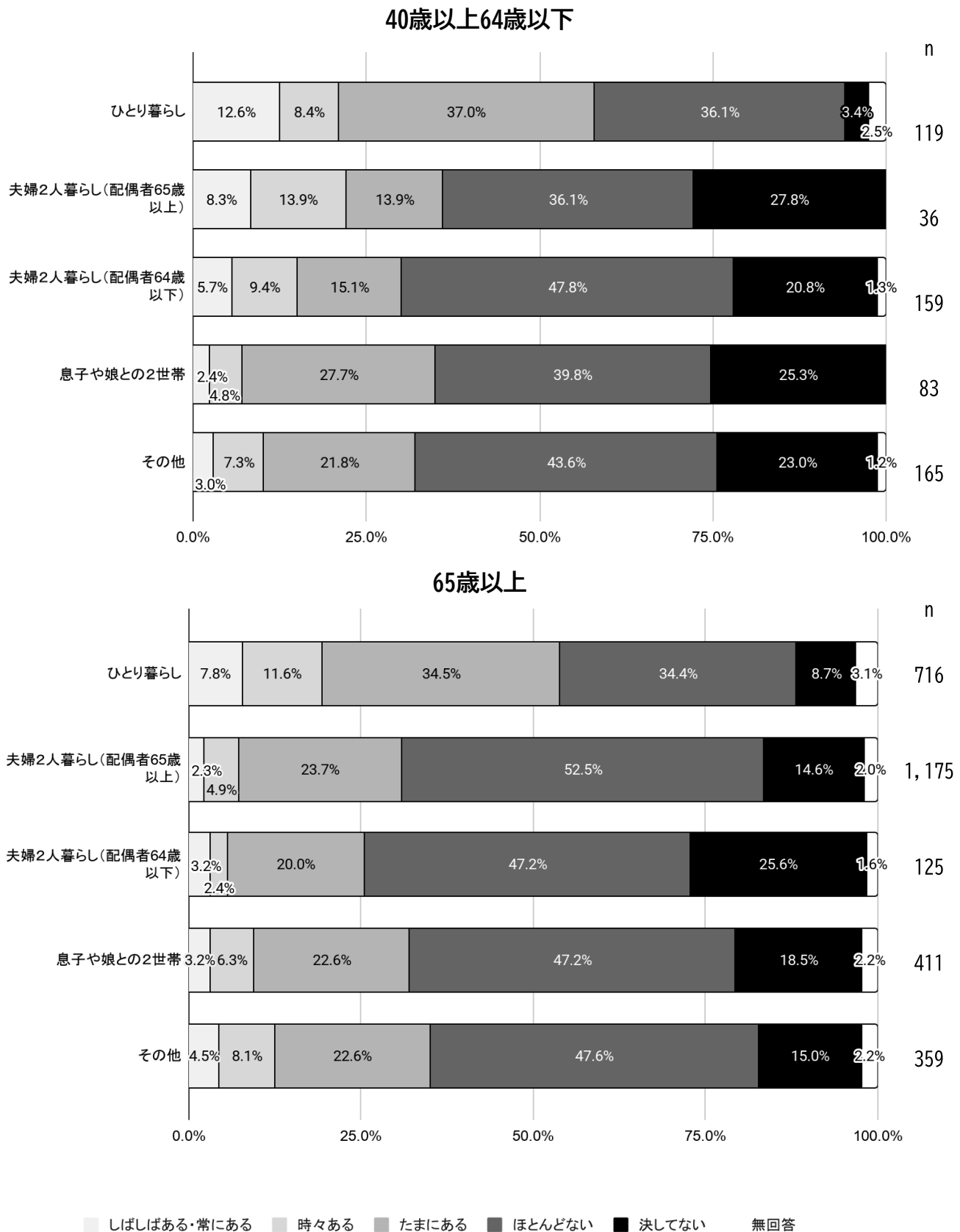
問7-8 孤独の状況 × 問1-4 年齢



2 調査結果（たすけあいについて）

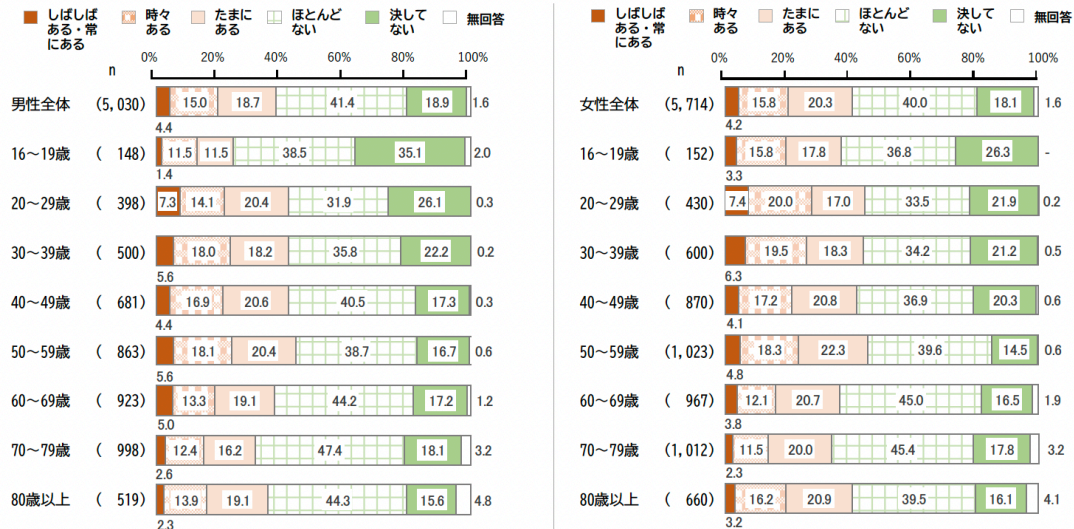
家族構成別にみると、「ひとり暮らし」では、64歳以下、65歳以上ともに「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を下回っている。一方、ほかの家族構成では、64歳以下、65歳以上ともに「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合は50.0%を超えている。

問7-8 孤独の状況 × 問2-1 家族構成



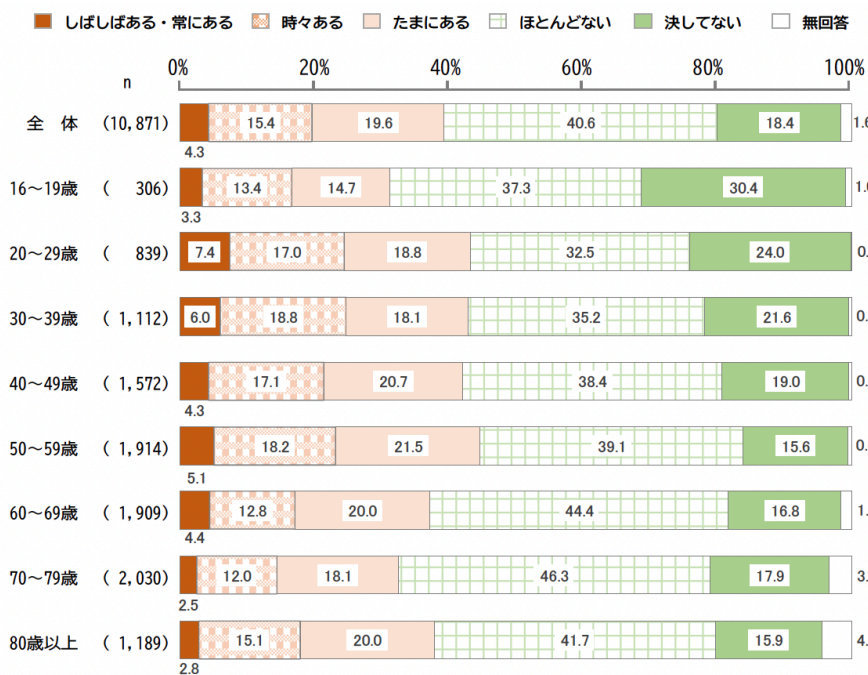
全国の満16歳以上の個人を対象に行われた内閣府「人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）」の同様の設問と比較したところ、男女別にみると40歳以上のどの年齢でも男女ともに「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えており、本調査とほぼ同様の結果となっている。

**【参考】内閣府「人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）」  
男女、年齢階級別孤独感**



年齢別にみると、80歳以上の年齢階級別内訳は確認できないものの、いずれも「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えており、本調査とほぼ同様の結果となっている。

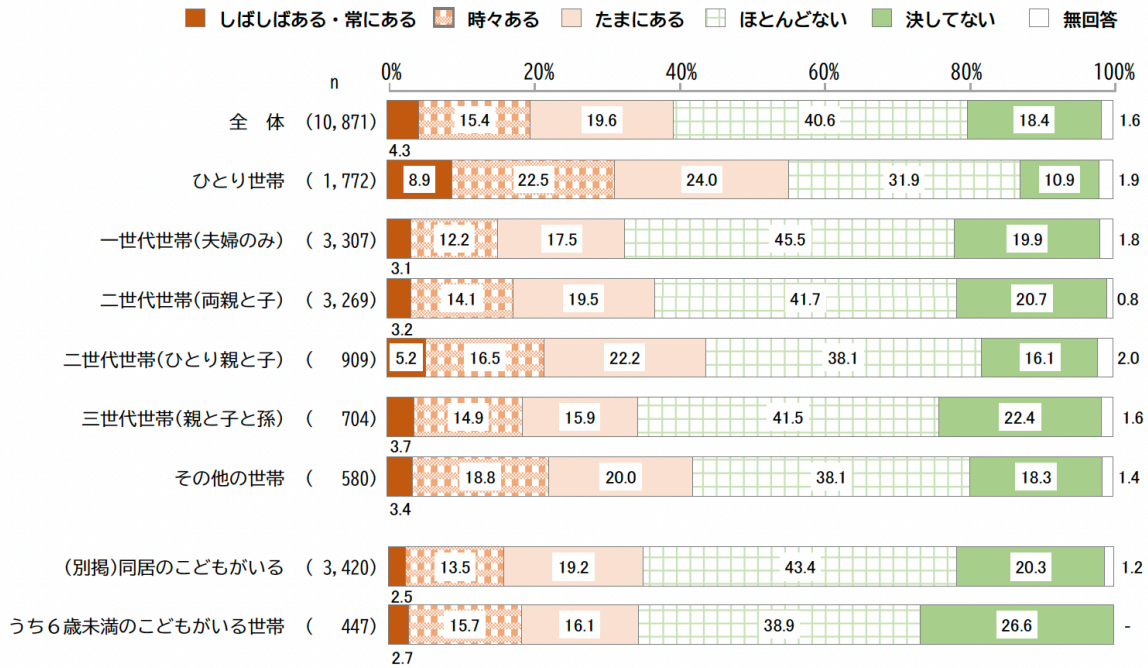
**【参考】内閣府「人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）」  
年齢階級別孤独感**



2 調査結果（たすけあいについて）

世帯構成別にみると、ひとり世帯では「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を下回っている。一方、その他の家族構成では「決してない」「ほとんどない」を合わせた割合が50.0%を超えており、本調査とほぼ同様の結果となっている。

【参考】内閣府「人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）」  
世帯構成別孤独感

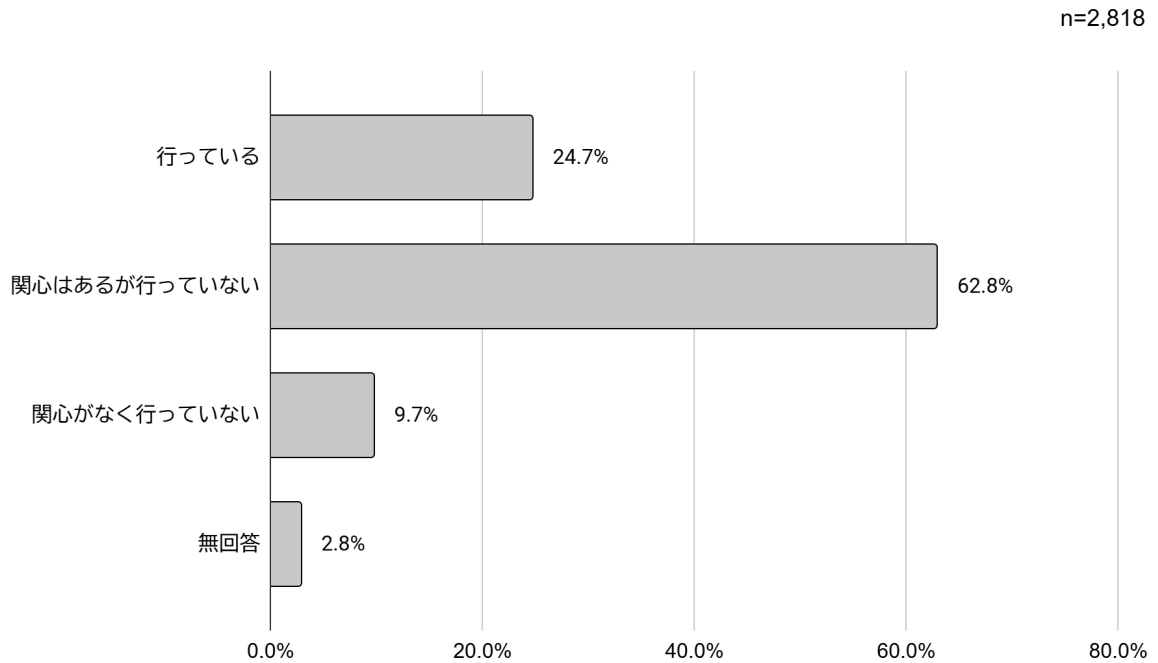


## 問7-9 終活の有無【65歳以上】

あなたは終活※を行っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

終活を行っているか尋ねたところ、「関心はあるが行っていない」が最も多く62.8%、次いで「行っている」が24.7%となっている。

## 問7-9 終活の有無【65歳以上】

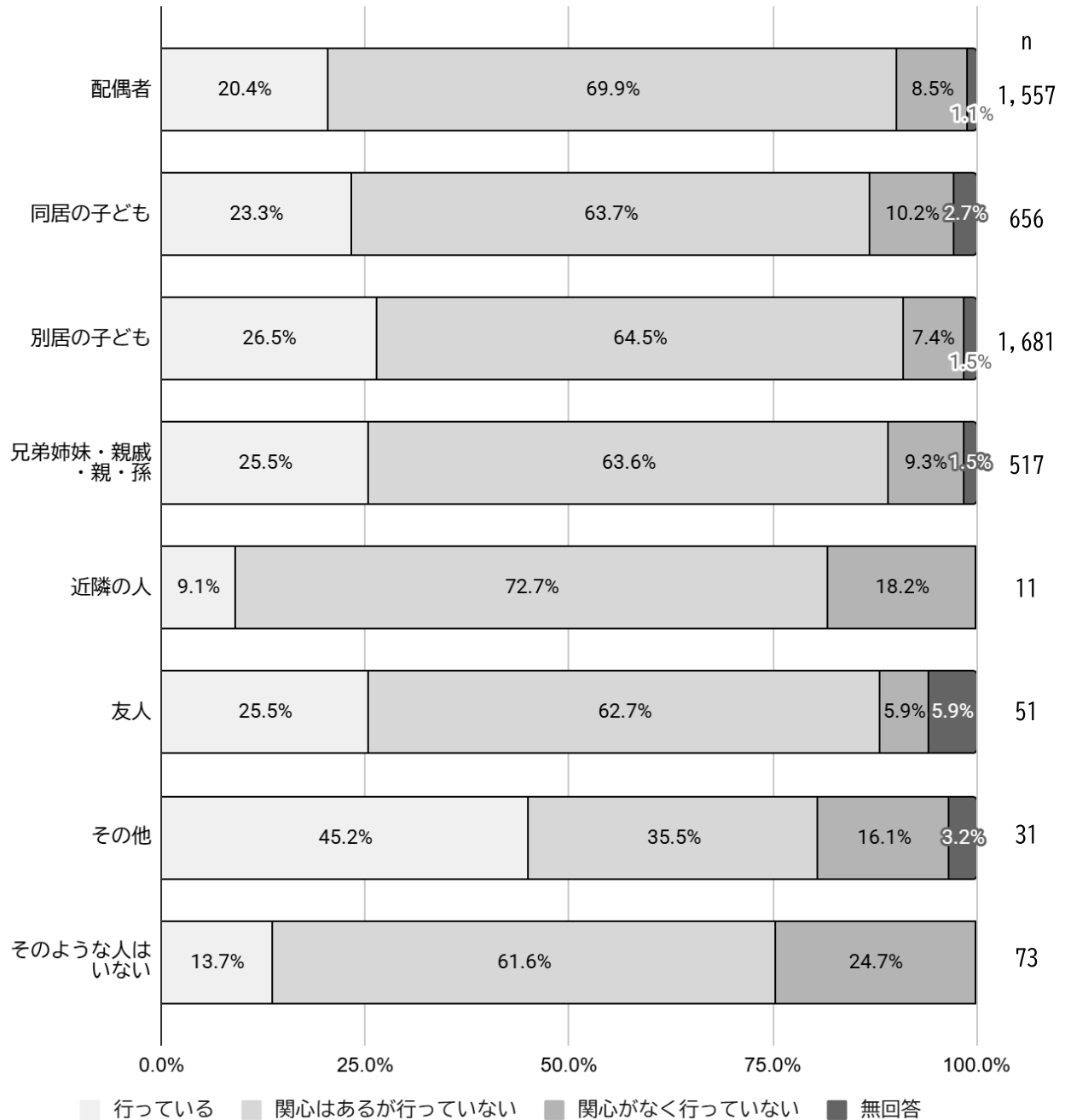


※ここでいう終活とは、人生の終わりに向けて、今後の住まいに関する事、医療や介護、亡くなった後の葬儀やお墓などについて事前に準備しておくことをいう。

2 調査結果（たすけあいについて）

亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人別にみると、「行っている」では「その他」（45.2%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（26.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」（25.5%）となっている。

問7-9 終活の有無【65歳以上】 × 問7-6 亡くなった後の様々な手続きを行ってくれる人【65歳以上】（複数回答）

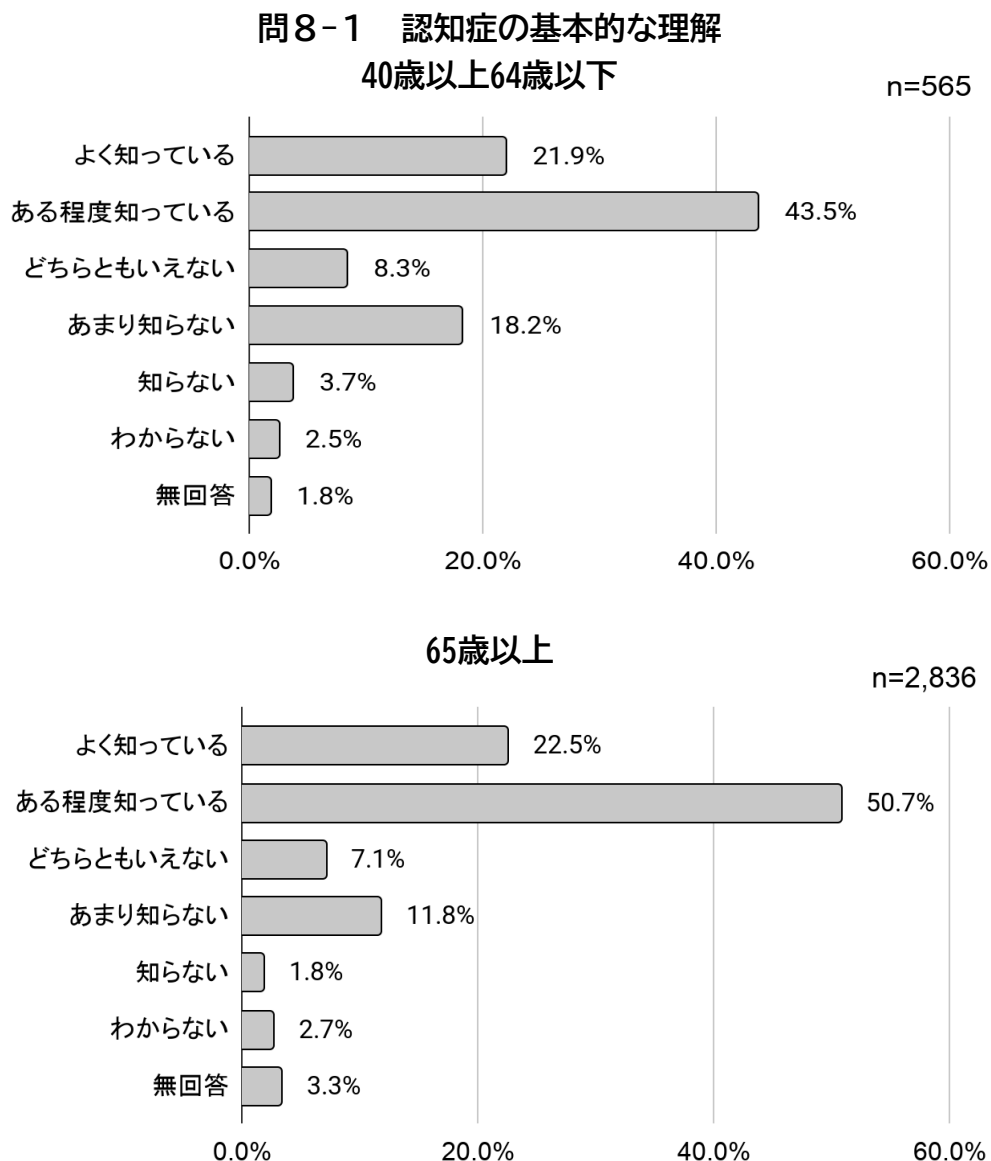


## 2. 8 認知症に関すること

### 問8-1 認知症の基本的な理解

認知症とは、加齢による物忘れとは違い、脳の神経細胞の働きが低下する病気で、誰もがなり得る可能性があります。症状は「記憶障害」の他、周囲の対応や環境に影響されて起こる「感情障害」などがあります。早期に適切な診断や治療を受けることで、症状の改善や進行を遅らせたり、今後の生活に備えることが可能です。  
あなたはこのことをどの程度ご存じでしたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

認知症の基本的な理解について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「ある程度知っている」が最も多く、64歳以下が43.5%、65歳以上が50.7%となっている。次いで、「よく知っている」が64歳以下で21.9%、65歳以上で22.5%となっている。



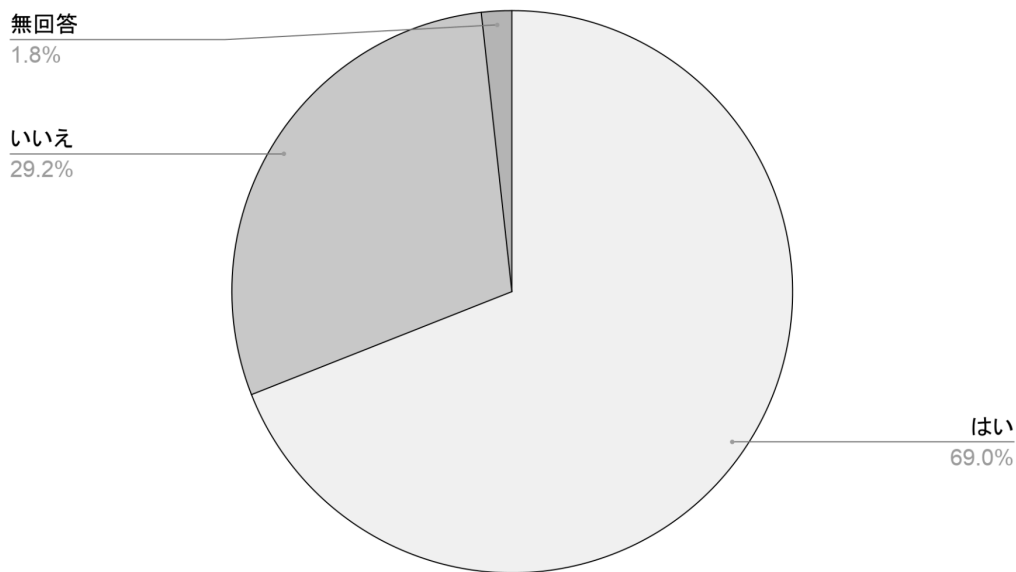
## 問8-2 認知症の人に接した経験

あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

認知症の人と接したことがあるかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「はい」が50.0%を超えており、64歳以下は69.0%、65歳以上は57.0%となっている。

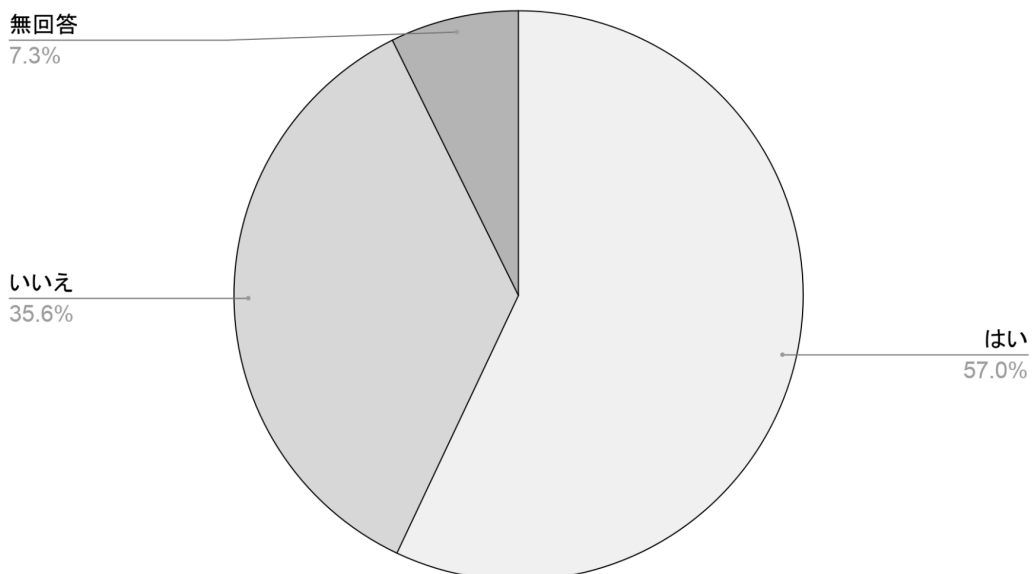
### 問8-2 認知症の人に接した経験 40歳以上64歳以下

n=565



### 65歳以上

n=2,836



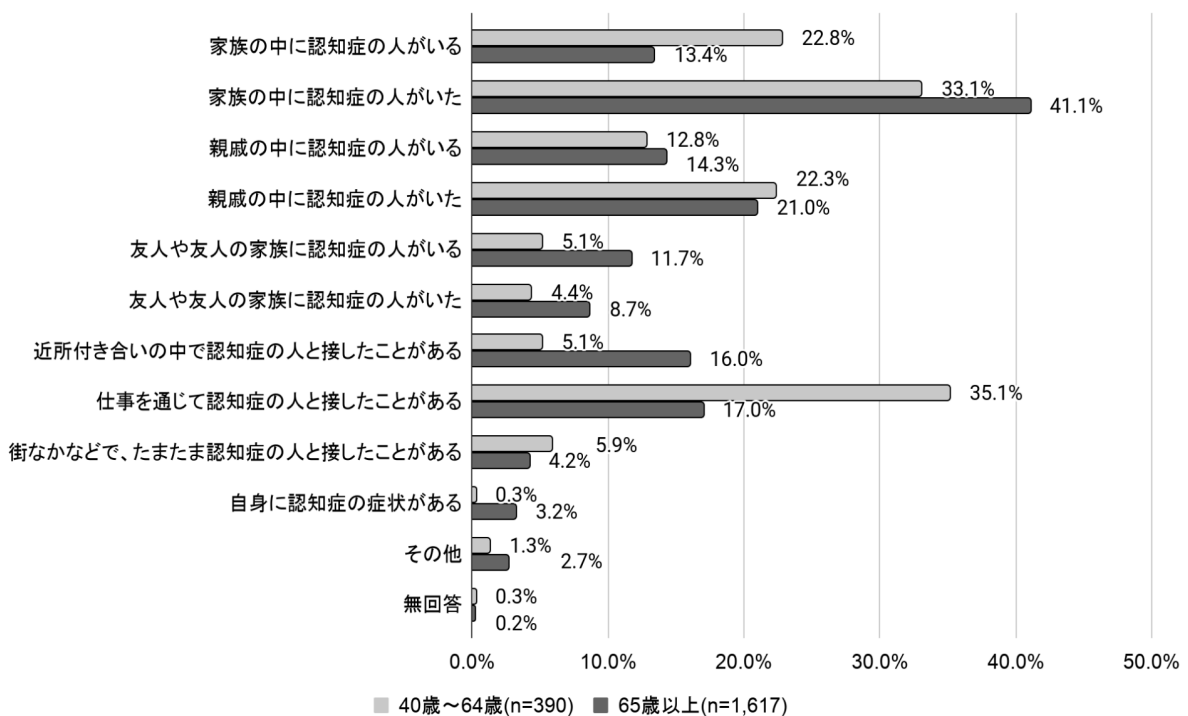
## 問8-3 経験内容（複数回答）

【問8-2で「はい」と回答した方にお聞きします】

経験したことがあるのは、どのようなことですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

認知症の人と接したことがある人にどのような経験かを尋ねたところ、64歳以下は「仕事を通じて認知症の人と接したことがある」（35.1%）が最も多く、65歳以上では「家族の中に認知症の人がいた」（41.1%）の割合が最も多くなっている。

## 問8-3 経験内容（複数回答）



## 問8-4 認知症への偏見

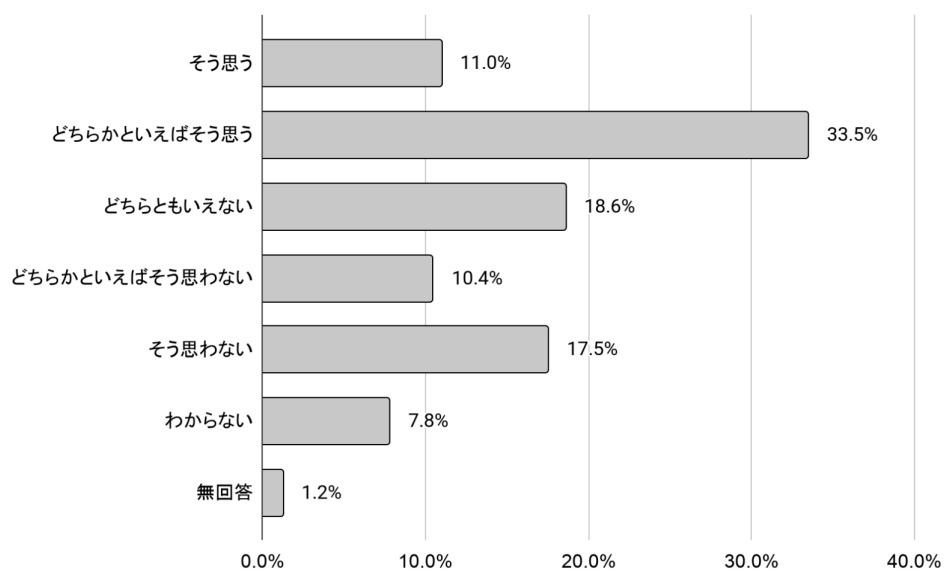
あなたは認知症の人が偏見を持ってみられる傾向にあると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

認知症の人が偏見を持ってみられる傾向にあるかを尋ねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、64歳以下は44.5%、65歳以上は38.0%となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は64歳以下で27.9%、65歳以上で25.9%となっている。

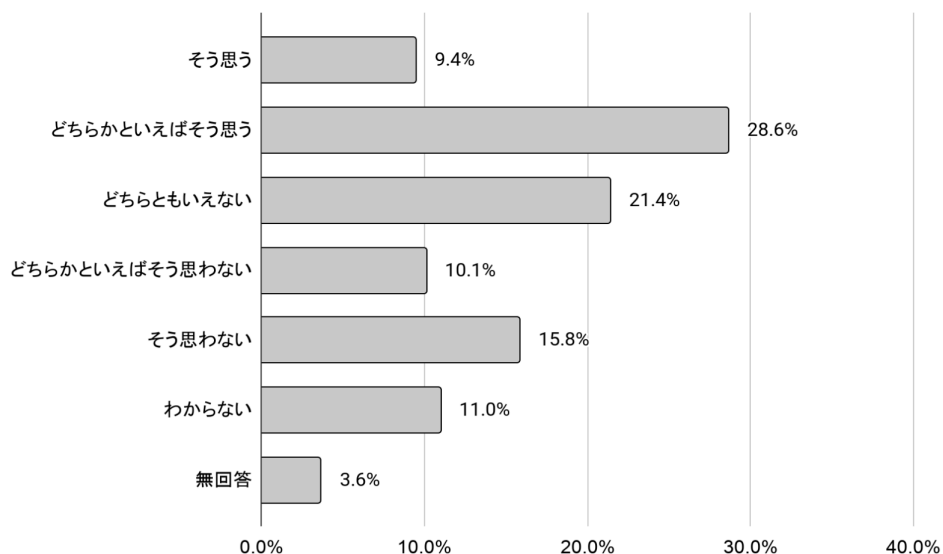
### 問8-4 認知症への偏見 40歳以上64歳以下

n=565



### 65歳以上

n=2,836



## 問8-5 認知症の人が自分らしく暮らせると考えている市民の割合

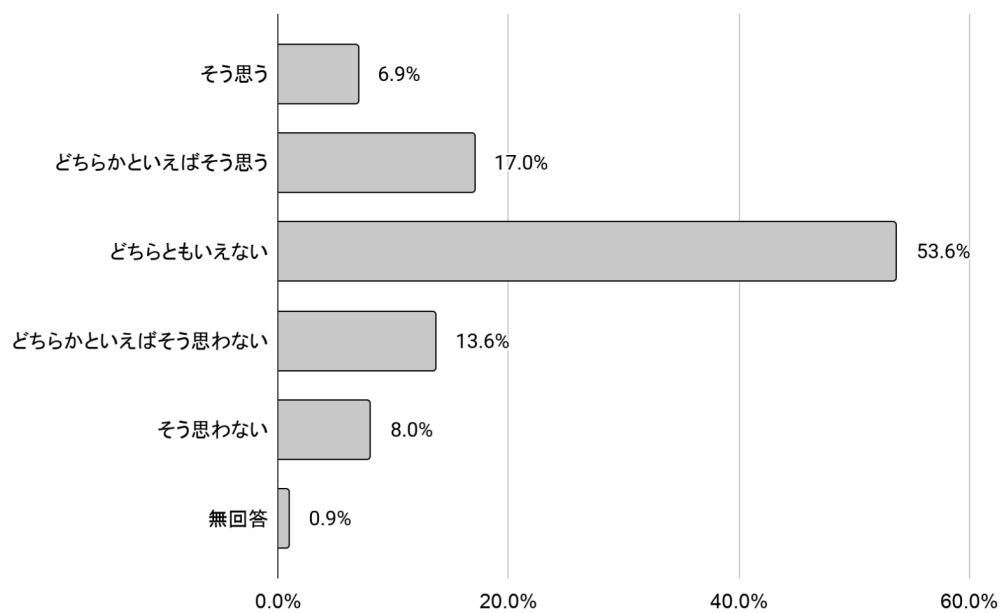
「認知症になってからも希望をもって自分らしく暮らすことができる」とあなたは思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

認知症の人が自分らしく暮らせると思うかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「どちらともいえない」が最も多く、64歳以下は53.6%、65歳以上では52.7%となっている。

### 問8-5 認知症の人が自分らしく暮らせると考えている市民の割合

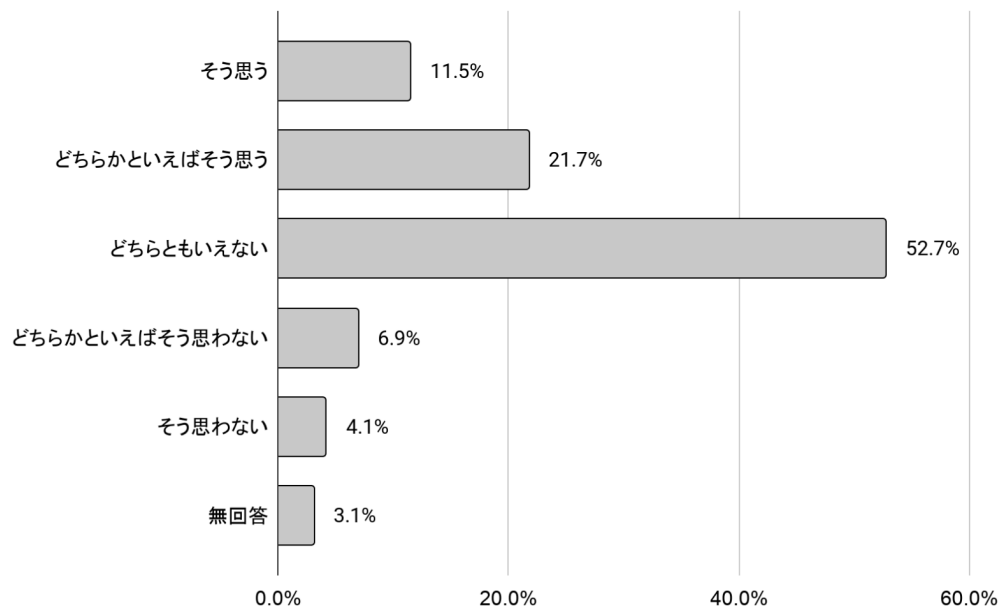
#### 40歳以上64歳以下

n=565



#### 65歳以上

n=2,836



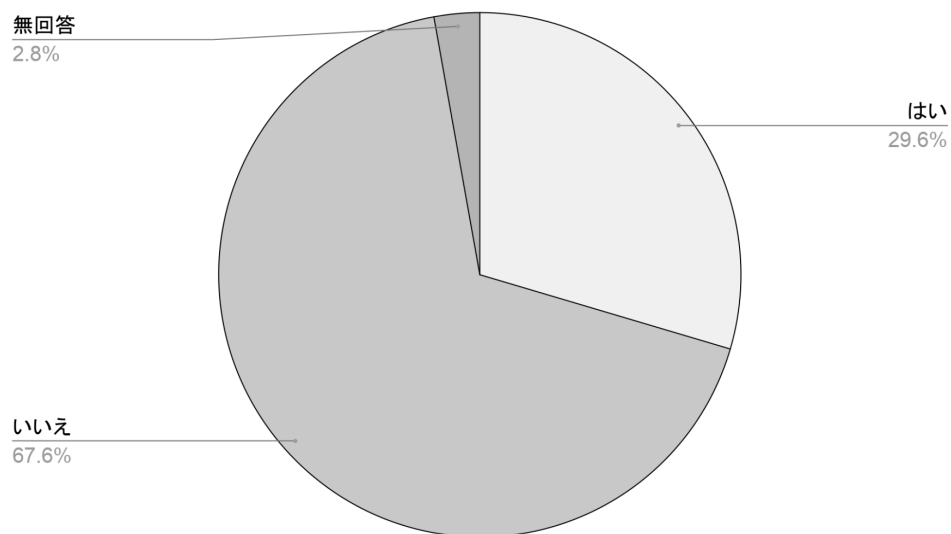
### 問8-6 認知症に関する相談窓口の認知度

あなたは認知症に関する相談窓口を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

認知症に関する相談窓口を知っているかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「いいえ」が50.0%を超えており、64歳以下が67.6%、65歳以上が67.5%となっている。

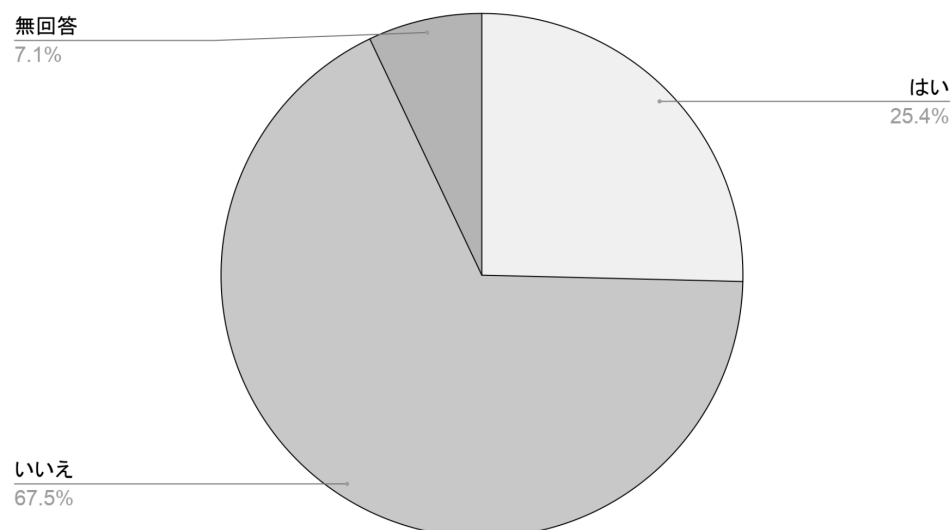
#### 問8-6 認知症に関する相談窓口の認知度 40歳以上64歳以下

n=565



#### 65歳以上

n=2,836

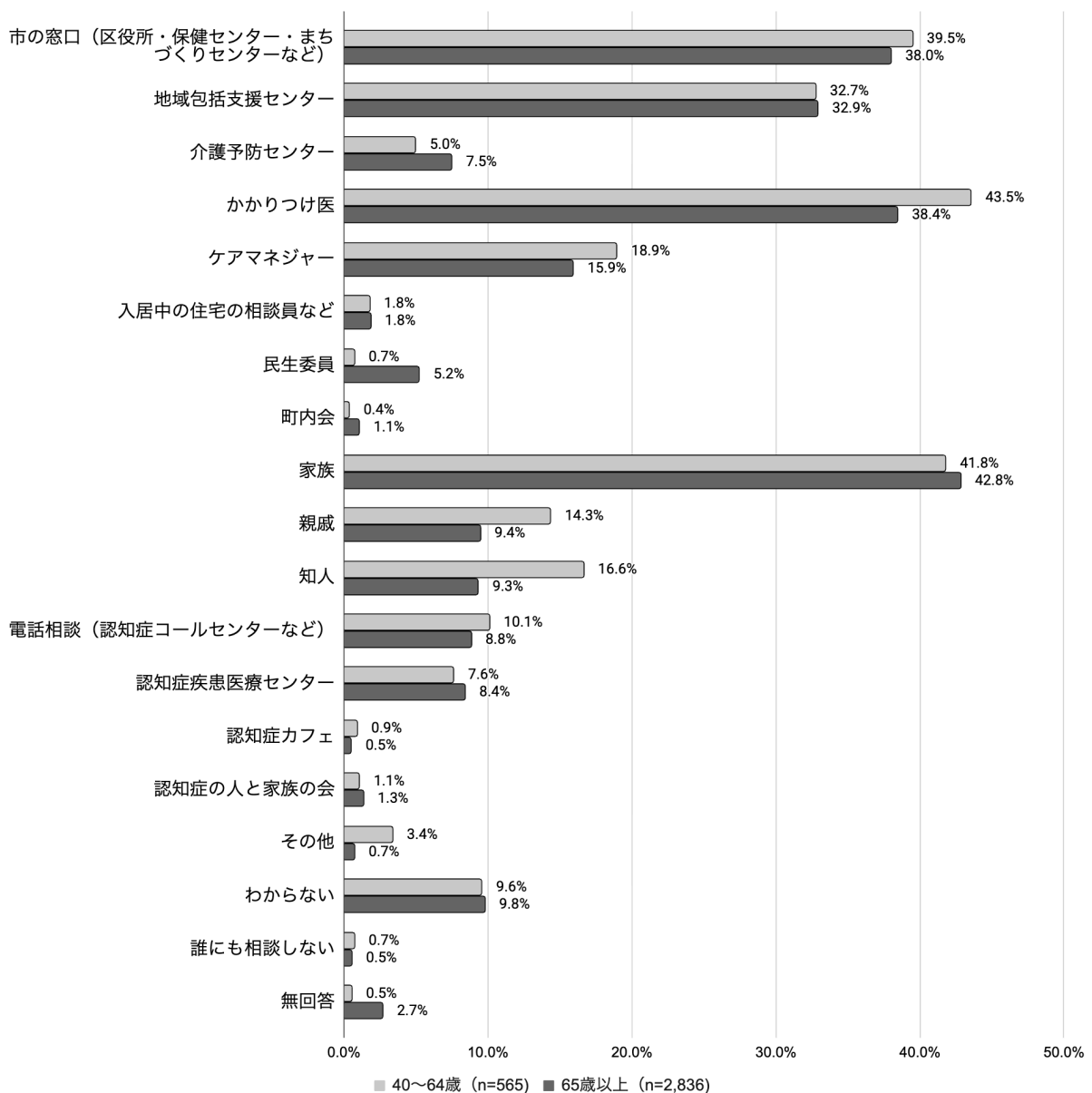


## 問8-7 認知症の相談先（複数回答）

仮にあなたやご家族の方に認知症の心配がある場合に、どこに相談しますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

仮に自分自身やご家族の方に認知症の心配がある場合、どこに相談するかを尋ねたところ、64歳以下は「かかりつけ医」（43.5%）が最も多く、次いで「家族」（41.8%）、「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（39.5%）となっている。65歳以上では、「家族」（42.8%）が最も多く、次いで「かかりつけ医」（38.4%）、「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（38.0%）となっている。

## 問8-7 認知症の相談先（複数回答）

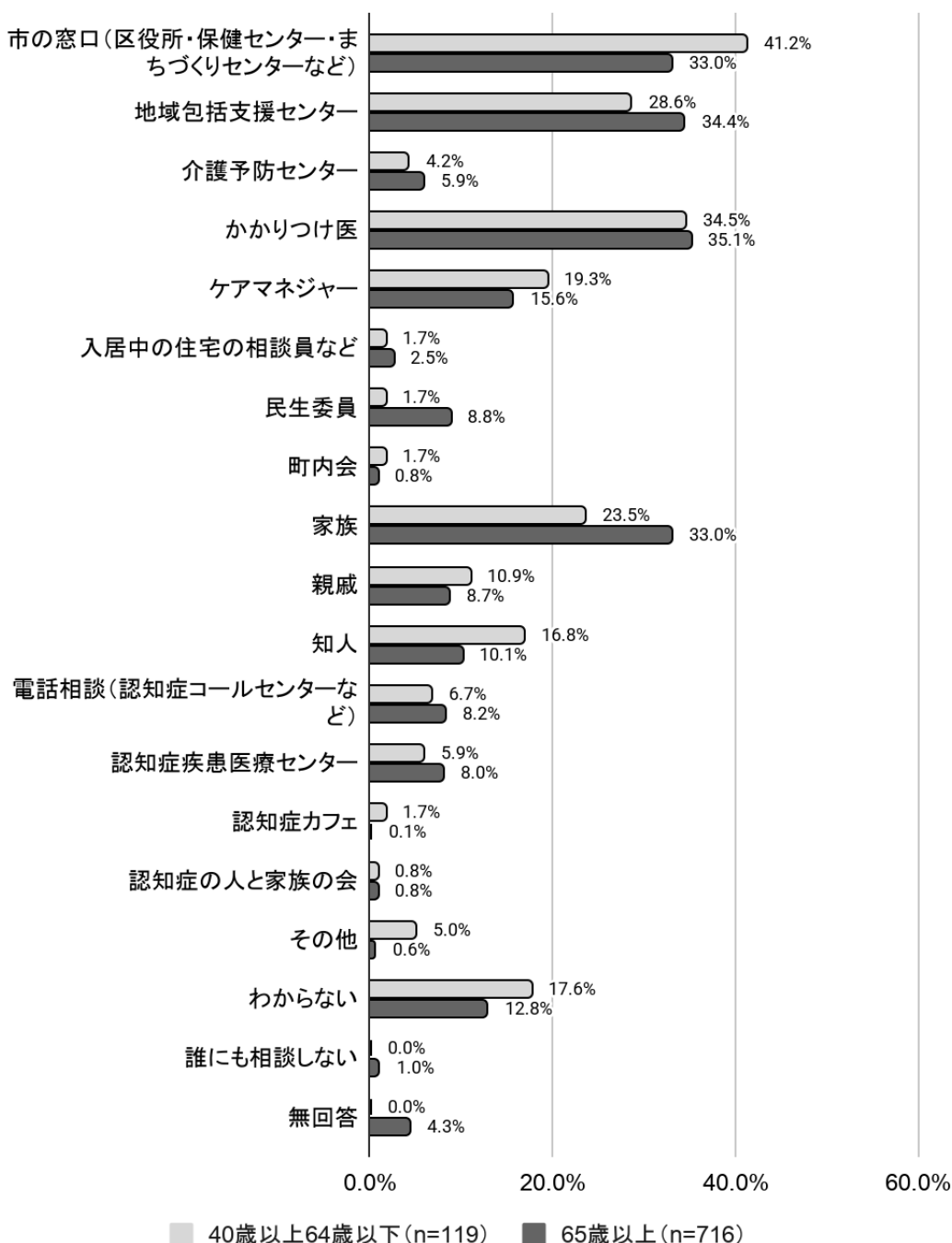


家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」「息子や娘との2世帯」「その他」では、64歳以下、65歳以上ともに「家族」が最も多くなっている。

一方、「ひとり暮らし」では64歳以下で「市の窓口（区役所・保健センター・まちづくりセンターなど）」（41.2%）、65歳以上で「かかりつけ医」（35.1%）が最も多くなっている。また、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」では64歳以下で「かかりつけ医」（47.2%）、65歳以上で「家族」（46.2%）が最も多くなっている。

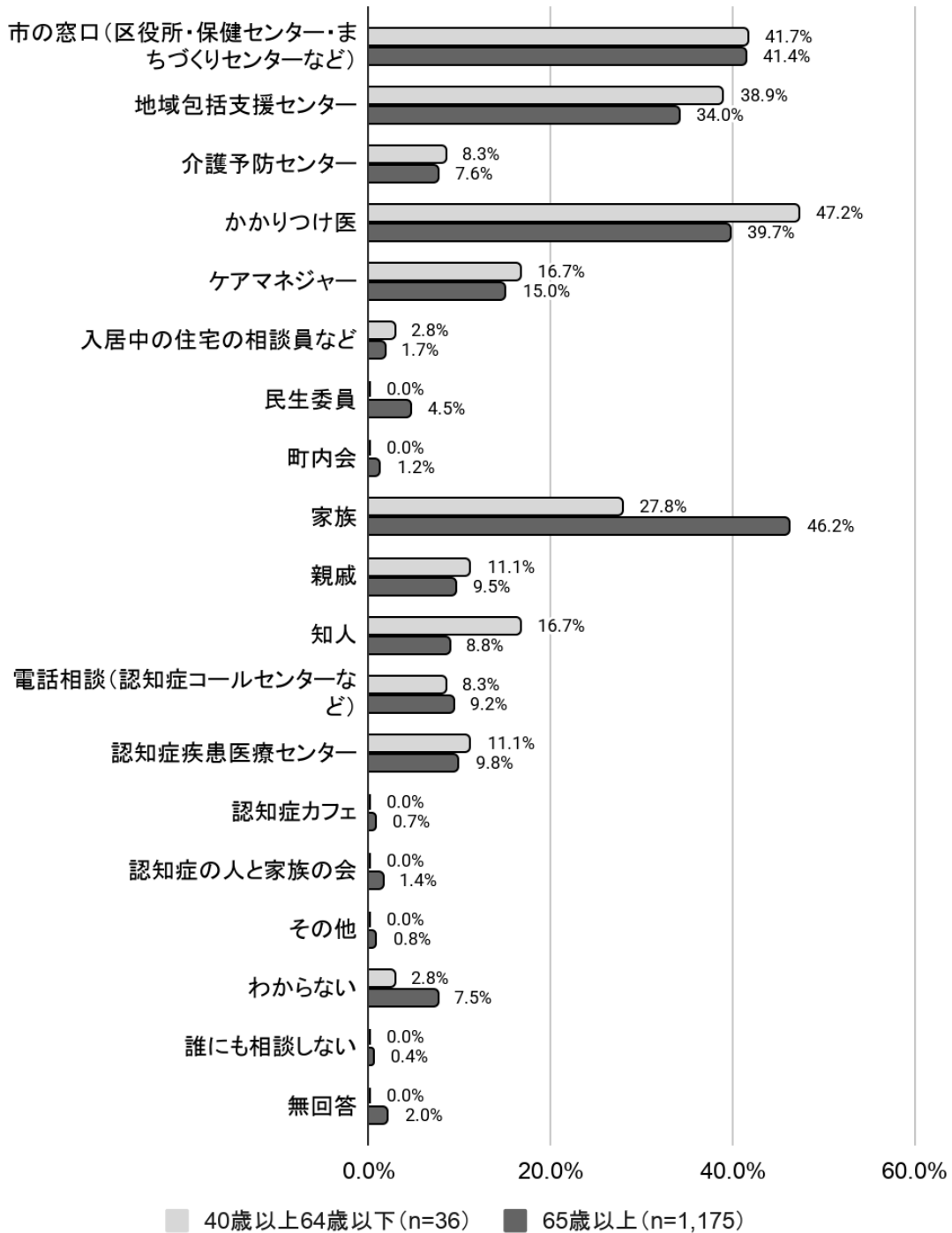
問8-7 認知症の相談先（複数回答） × 問2-1 家族構成

ひとり暮らし



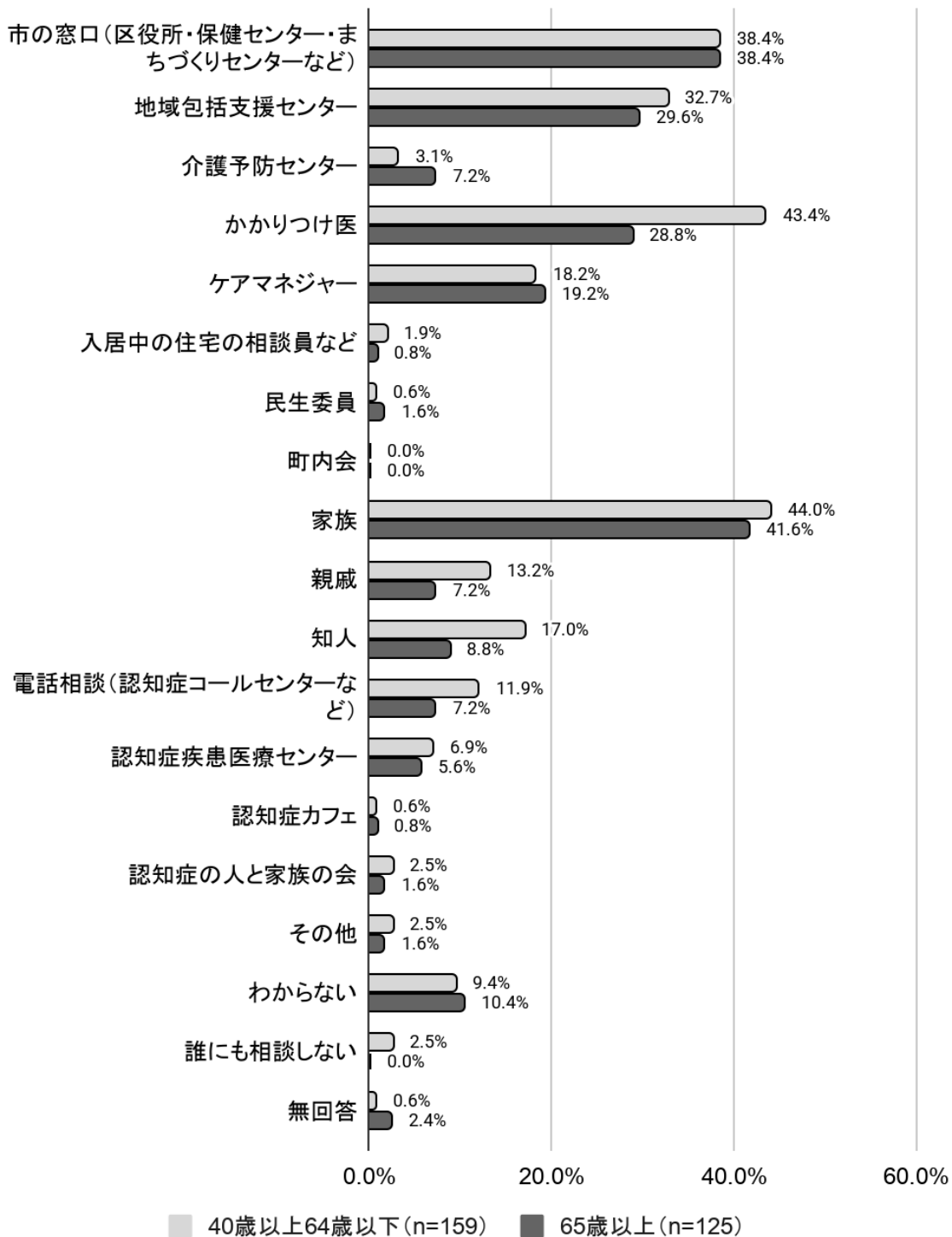
問8-7 認知症の相談先（複数回答） × 問2-1 家族構成

夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）



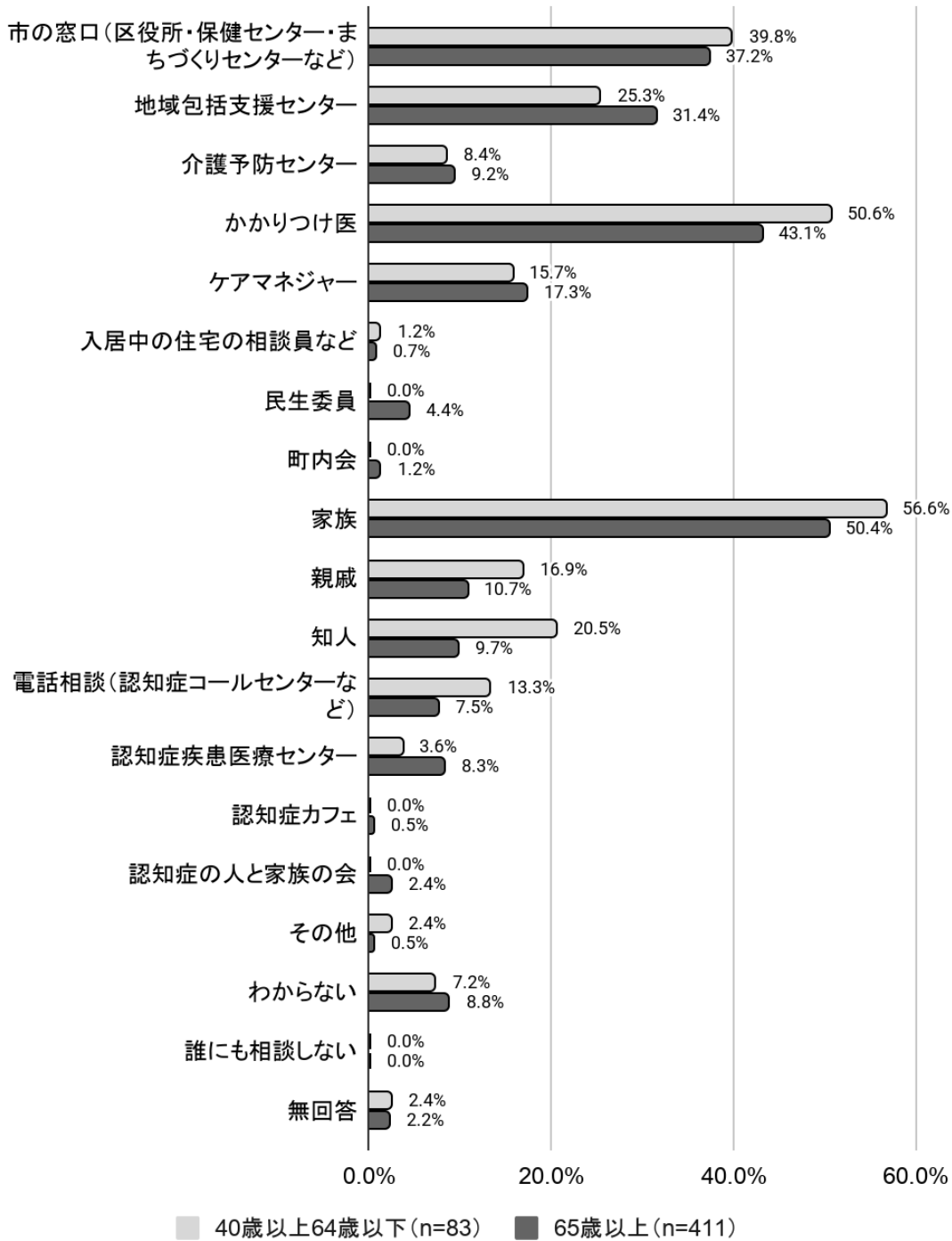
問8-7 認知症の相談先（複数回答） × 問2-1 家族構成

夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）



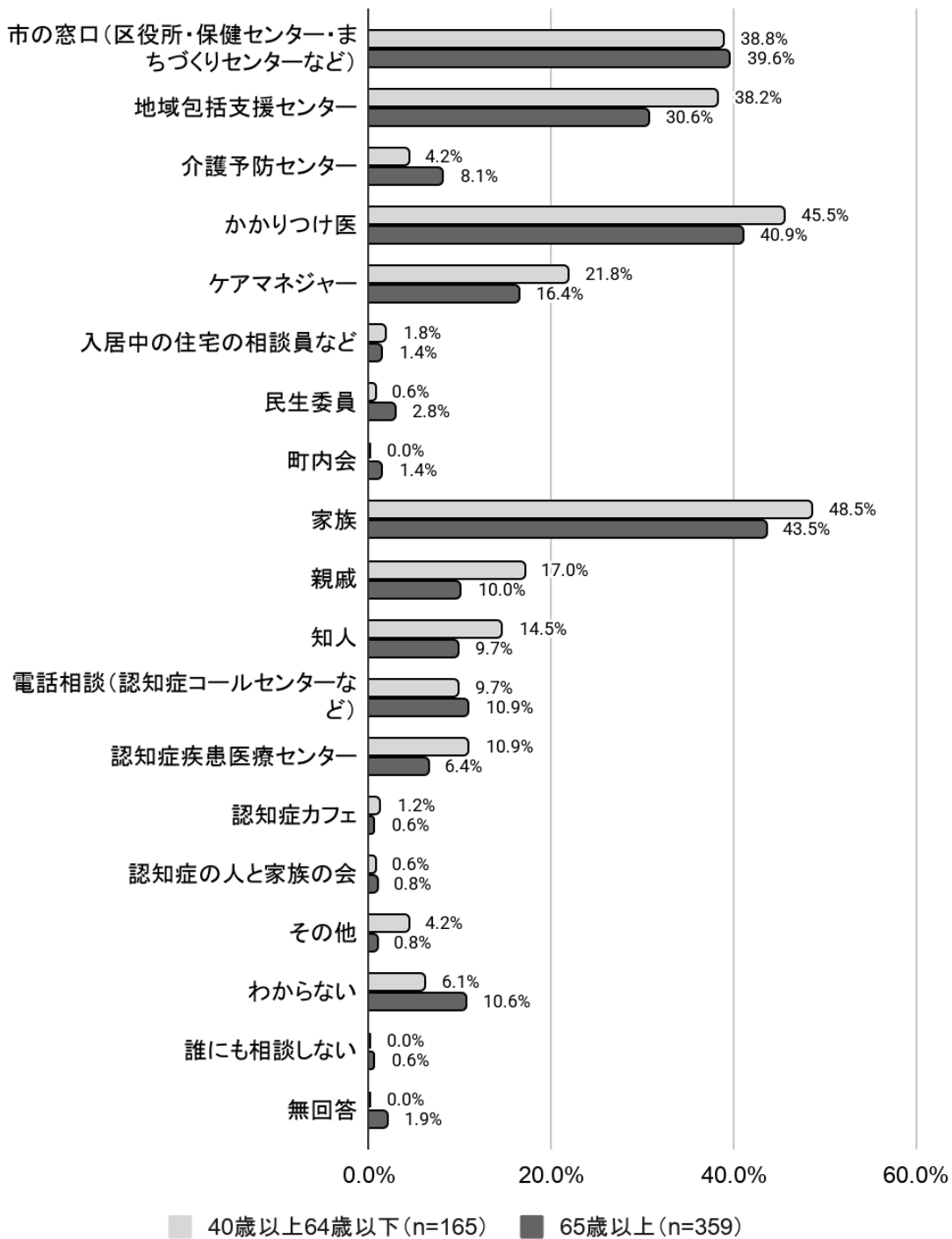
問8-7 認知症の相談先（複数回答） × 問2-1 家族構成

息子や娘との2世帯



問8-7 認知症の相談先（複数回答） × 問2-1 家族構成

その他



## 2.9 その他

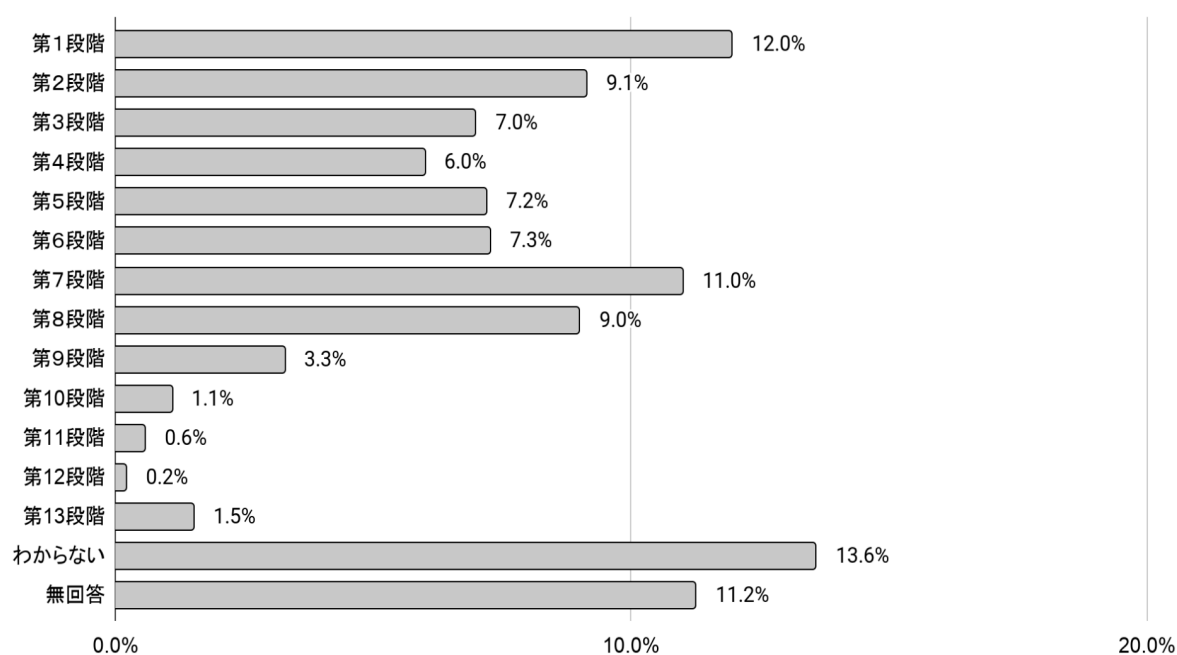
### 問9-1 保険料段階【65歳以上】

あなたの介護保険料の段階は何段階ですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

介護保険料段階について尋ねたところ、「わからない」（13.6%）が最も多く、次いで、「第1段階」（12.0%）、「第7段階」（11.0%）となっている。

### 問9-1 保険料段階【65歳以上】

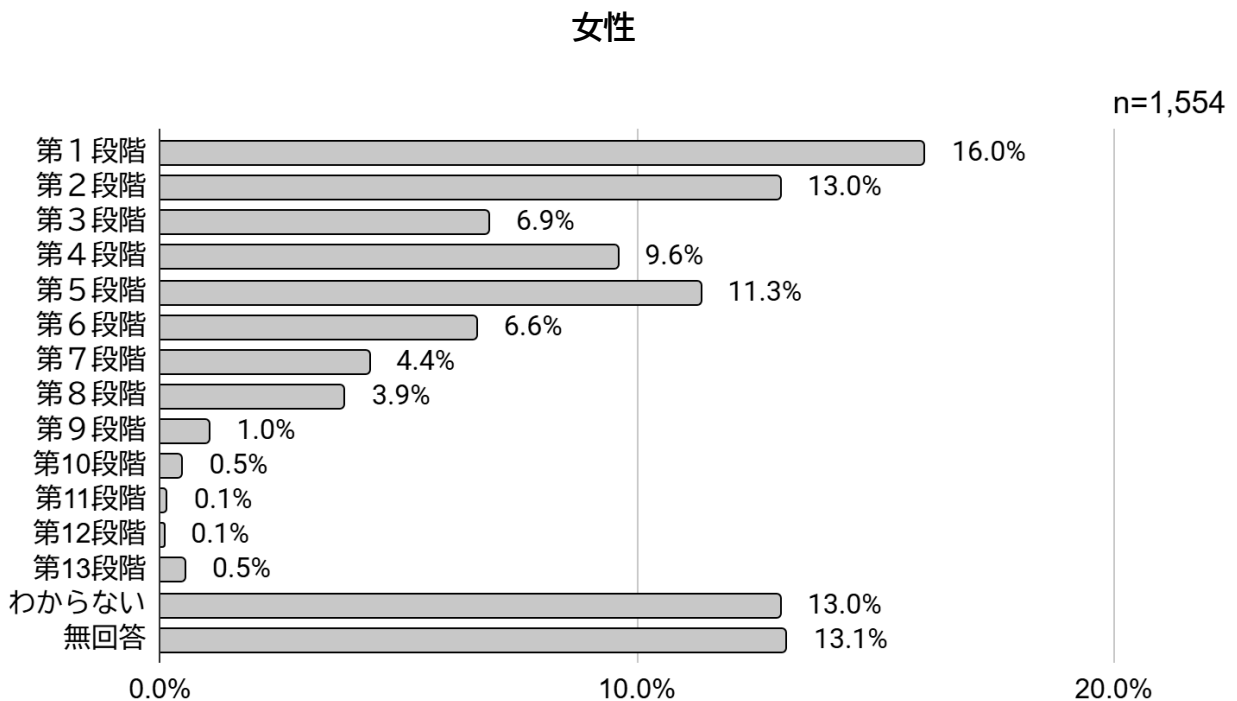
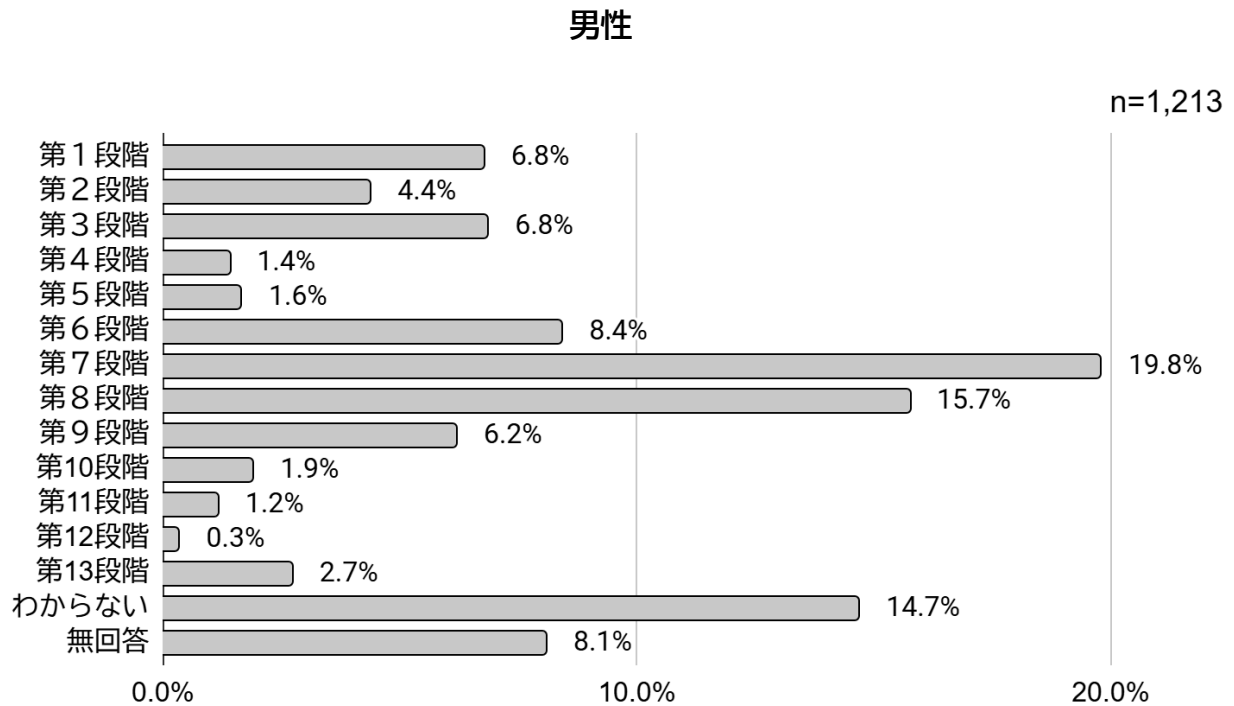
n=2,836



2 調査結果（その他）

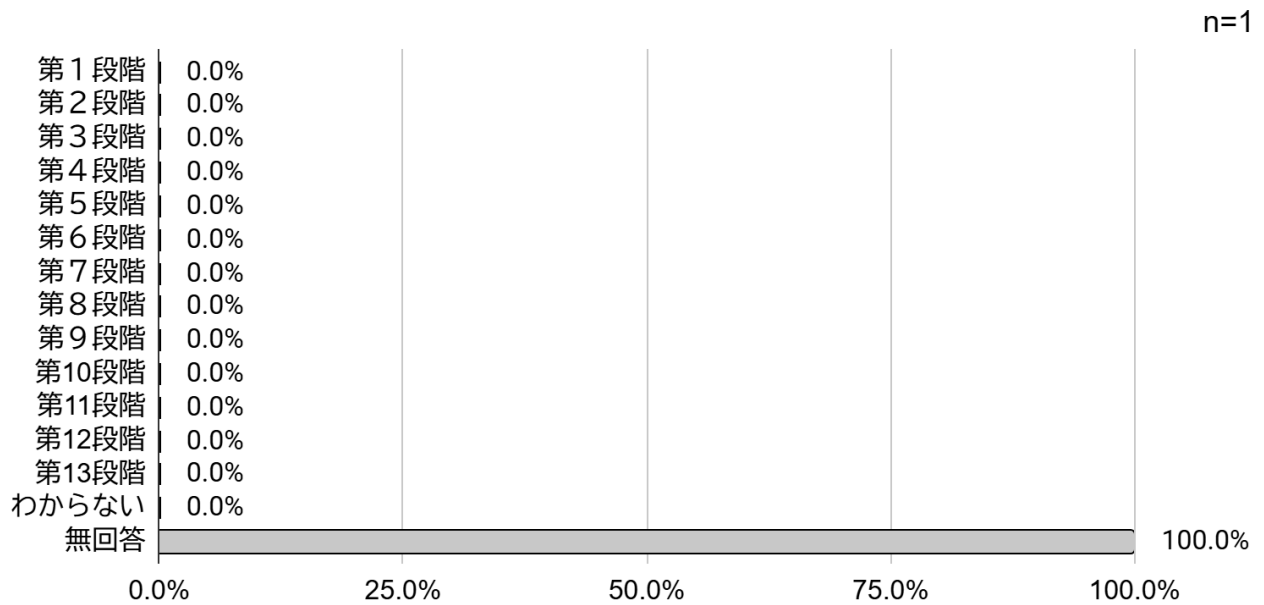
性別ごとにみると、「男性」では「第7段階」（19.8%）が最も多く、「女性」では「第1段階」（16.0%）となっている。

問9-1 保険料段階【65歳以上】 × 問1-3 性別

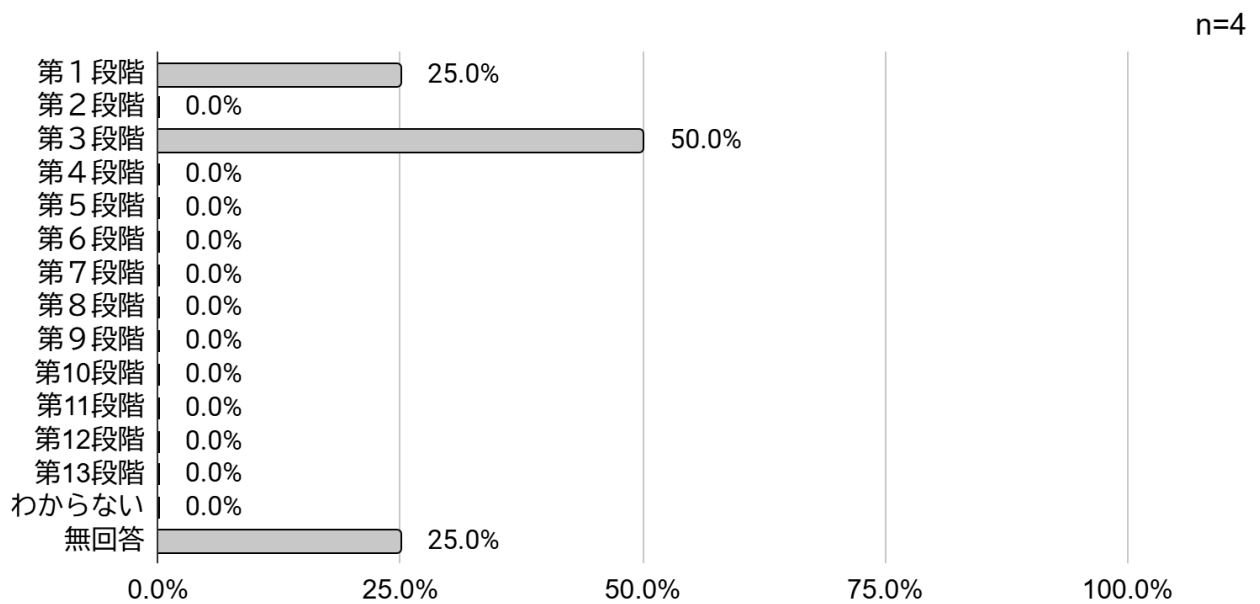


## 問9-1 保険料段階【65歳以上】 × 問1-3 性別

## その他



## 回答しない

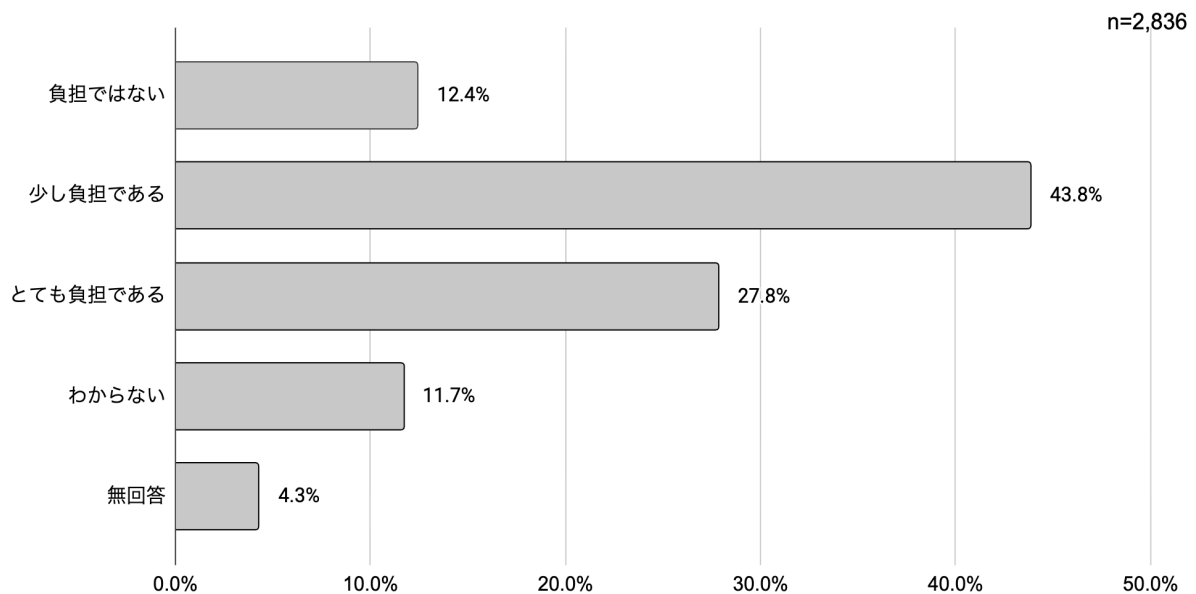


### 問9-2 保険料の負担感【65歳以上】

あなたは、現在支払っている介護保険料について、どう思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

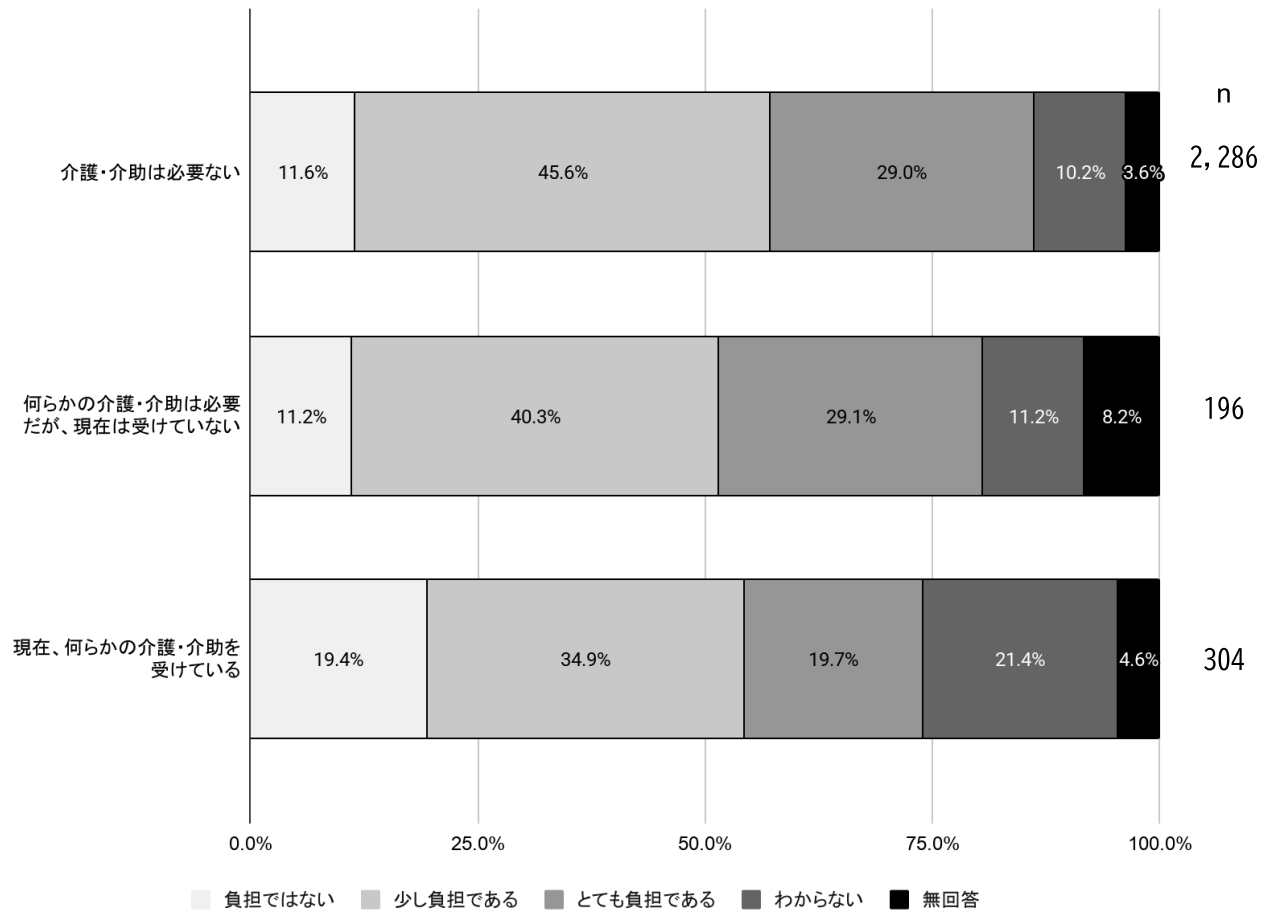
現在支払っている介護保険料の負担感について尋ねたところ、「少し負担である」（43.8%）が最も多く、次いで、「とても負担である」（27.8%）、「負担ではない」（12.4%）となっている。

### 問9-2 保険料の負担感【65歳以上】



介護・介助の必要性別にみると、「少し負担である」「とても負担である」を合わせた割合が、すべて50.0%を超えている。

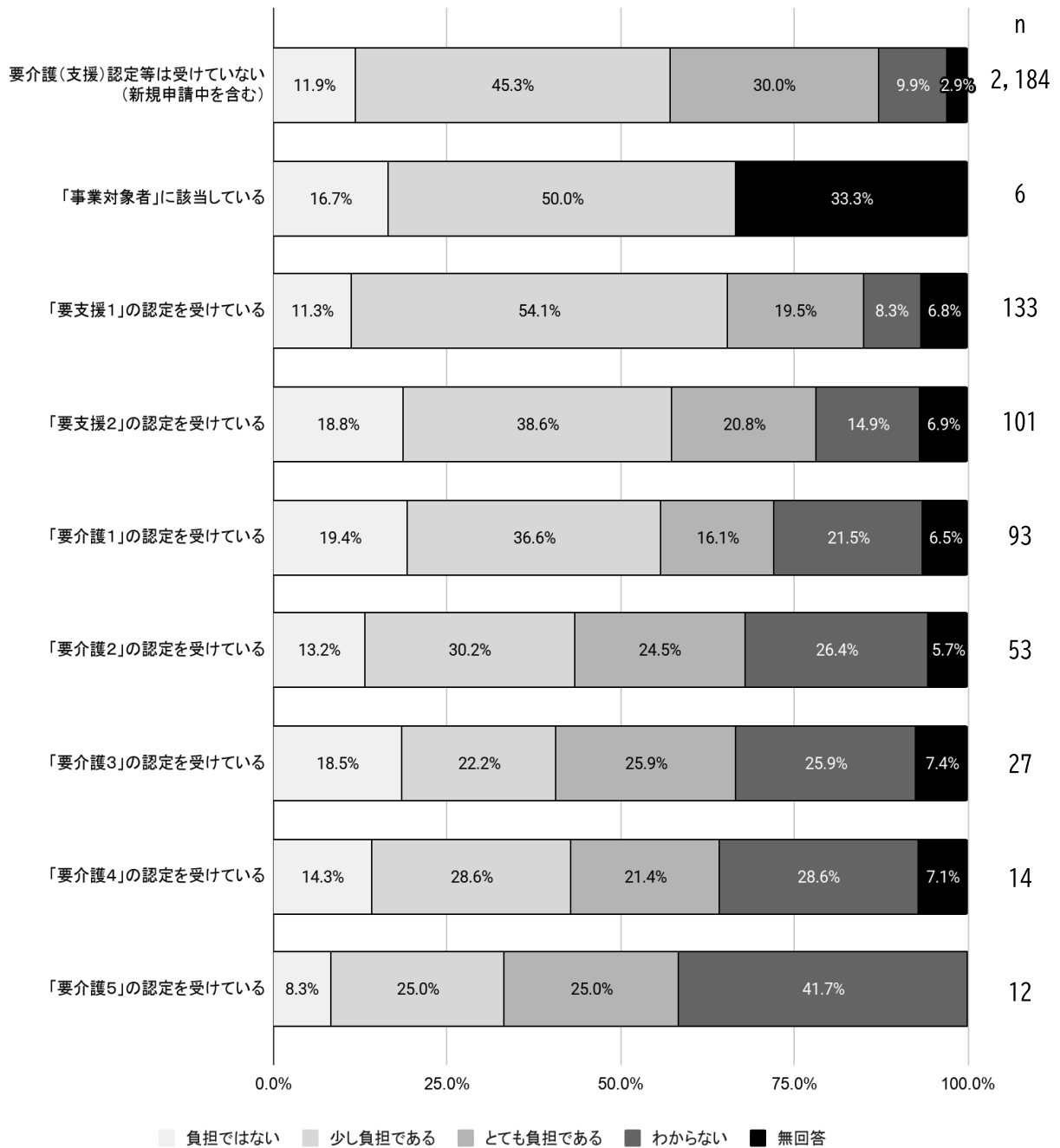
### 問9-2 保険料の負担感【65歳以上】× 問5-19 介護・介助の必要性



2 調査結果（その他）

要介護等認定状況別にみると、「少し負担である」「とても負担である」を合わせた割合が、「『要介護3』の認定を受けている」を除き、すべて50.0%以上となっている。

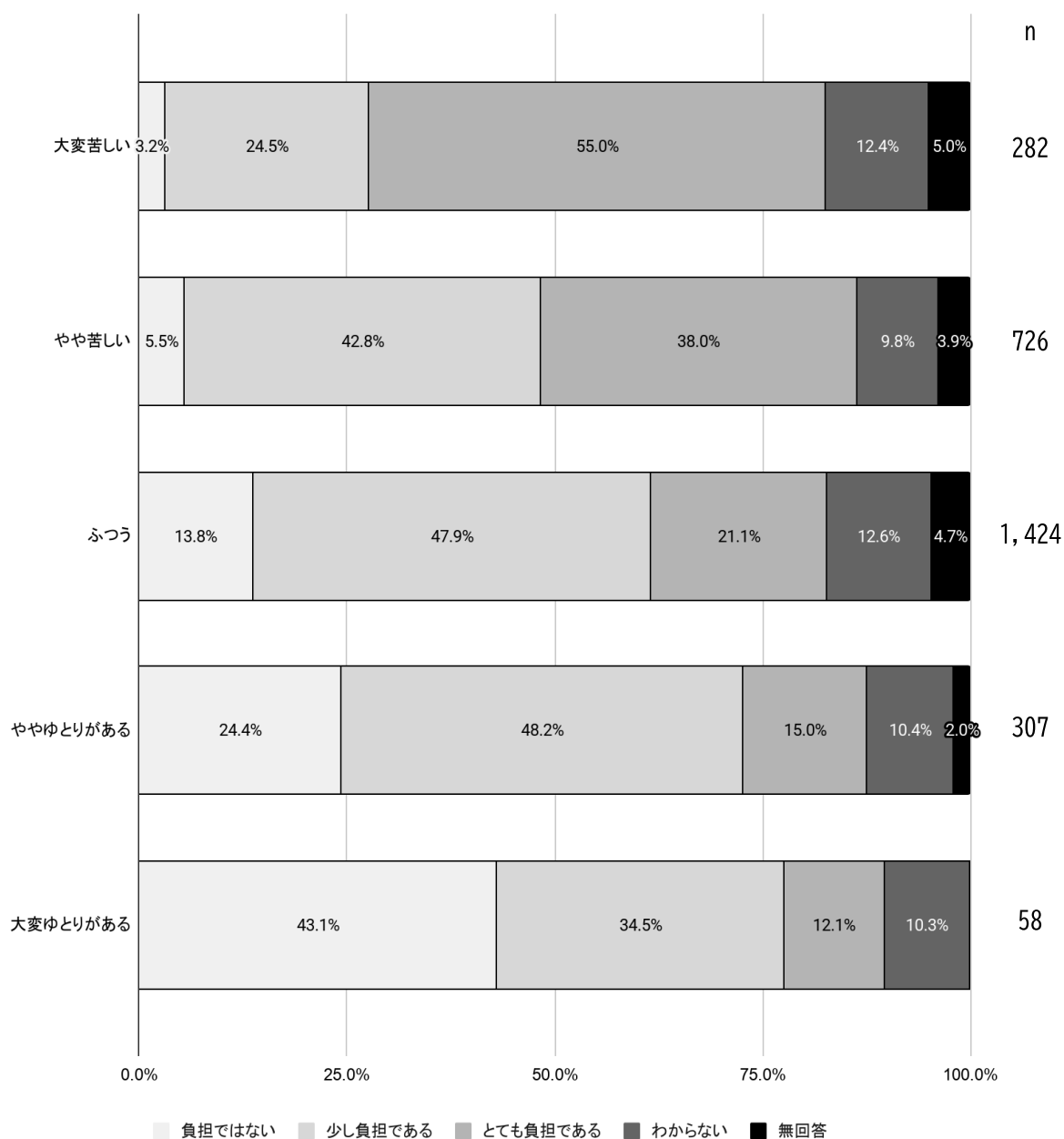
問9-2 保険料の負担感【65歳以上】 × 問5-20 要介護等認定状況



経済状況別にみると、「負担ではない」とする割合は、「大変ゆとりがある」と回答した方が43.1%と最も多くなっている。

一方で、「とても負担である」とする割合は、「大変苦しい」と回答した方が55.0%と最も多くなっている。

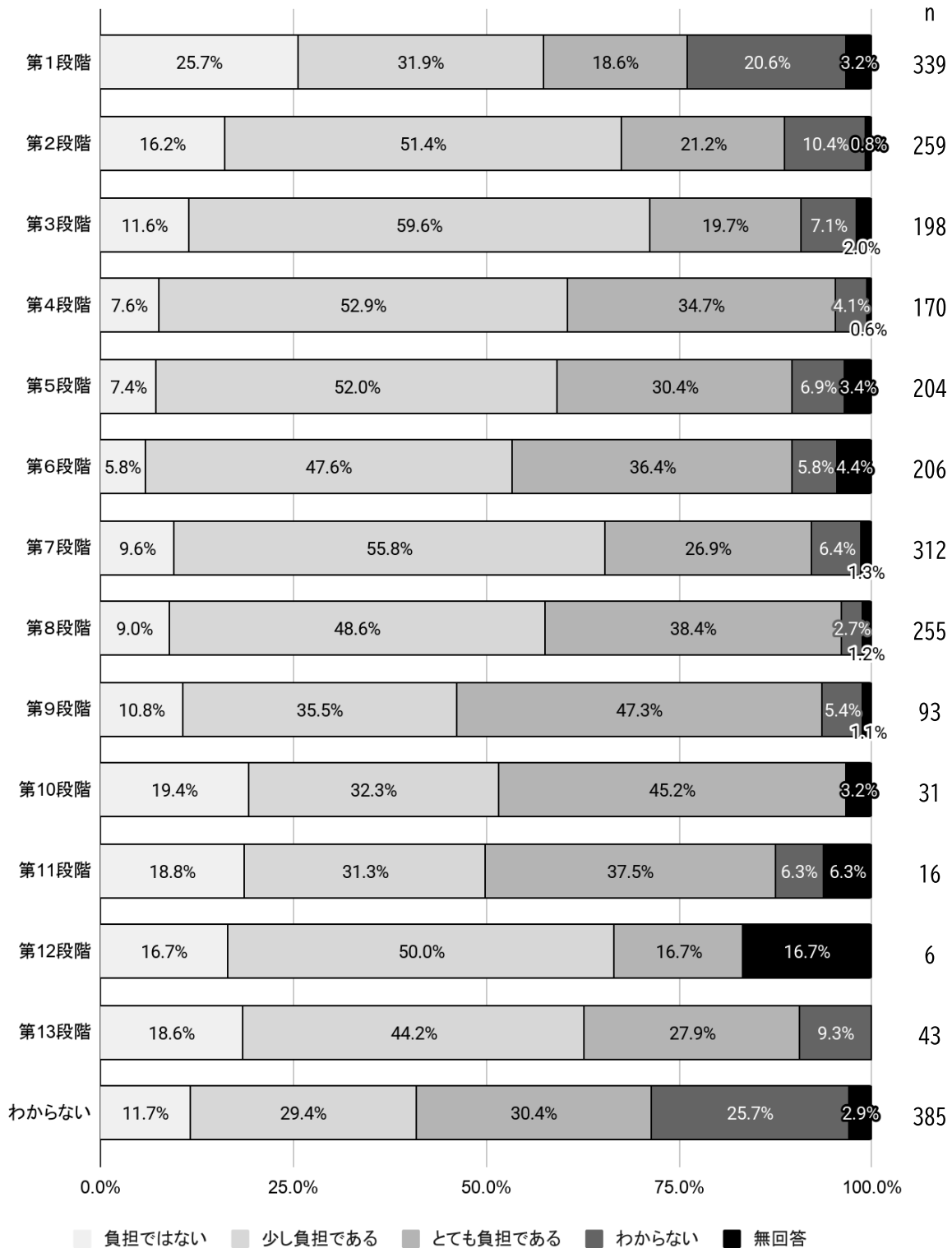
### 問9-2 保険料の負担感【65歳以上】 × 問3-5 経済状況【65歳以上】



2 調査結果（その他）

保険料段階別にみると、「負担ではない」とする割合は「第1段階」（25.7%）が最も多くなっている。一方、「とても負担である」とする割合は「第9段階」（47.3%）が最も多くなっている。

問9-2 保険料の負担感【65歳以上】 × 問9-1 保険料段階【65歳以上】

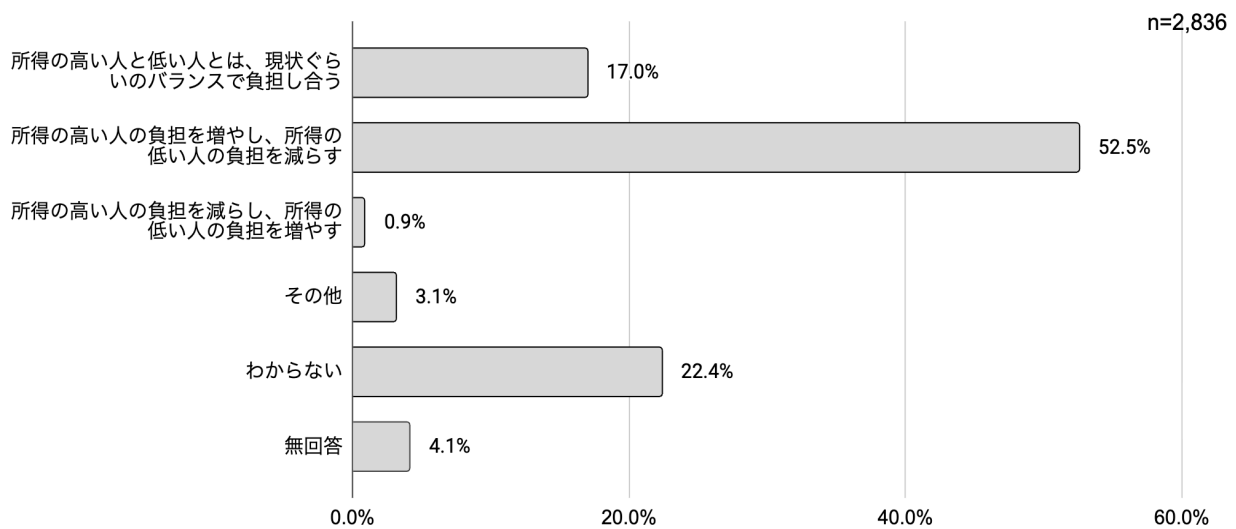


### 問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】

あなたは、今後の介護保険料の負担はどうあるべきだと思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

今後の介護保険料の負担のあり方について尋ねたところ、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らす」（52.5%）が最も多く、次いで、「わからない」（22.4%）、「所得の高い人と低い人とは、現状ぐらいのバランスで負担し合う」（17.0%）となっている。

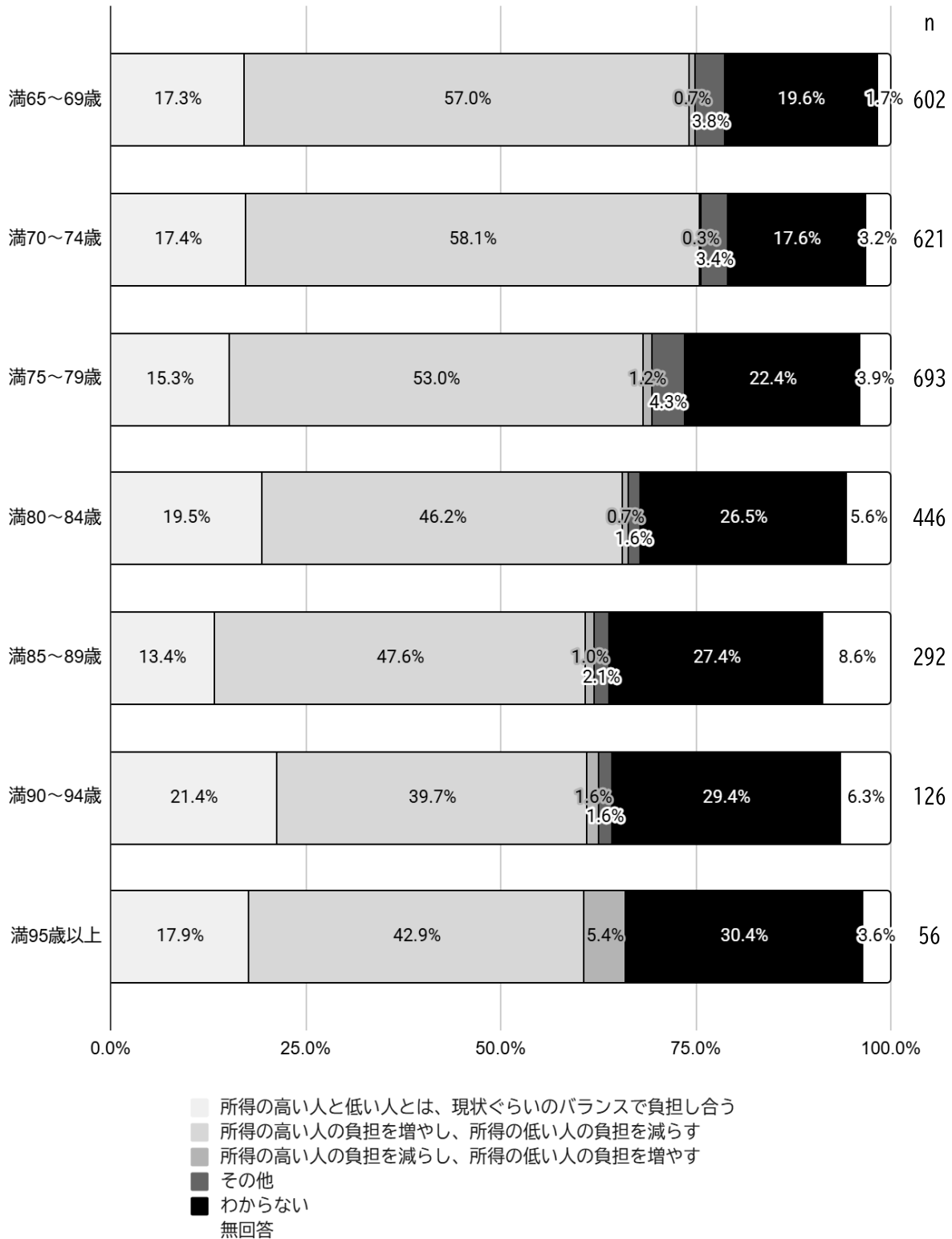
#### 問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】



2 調査結果（その他）

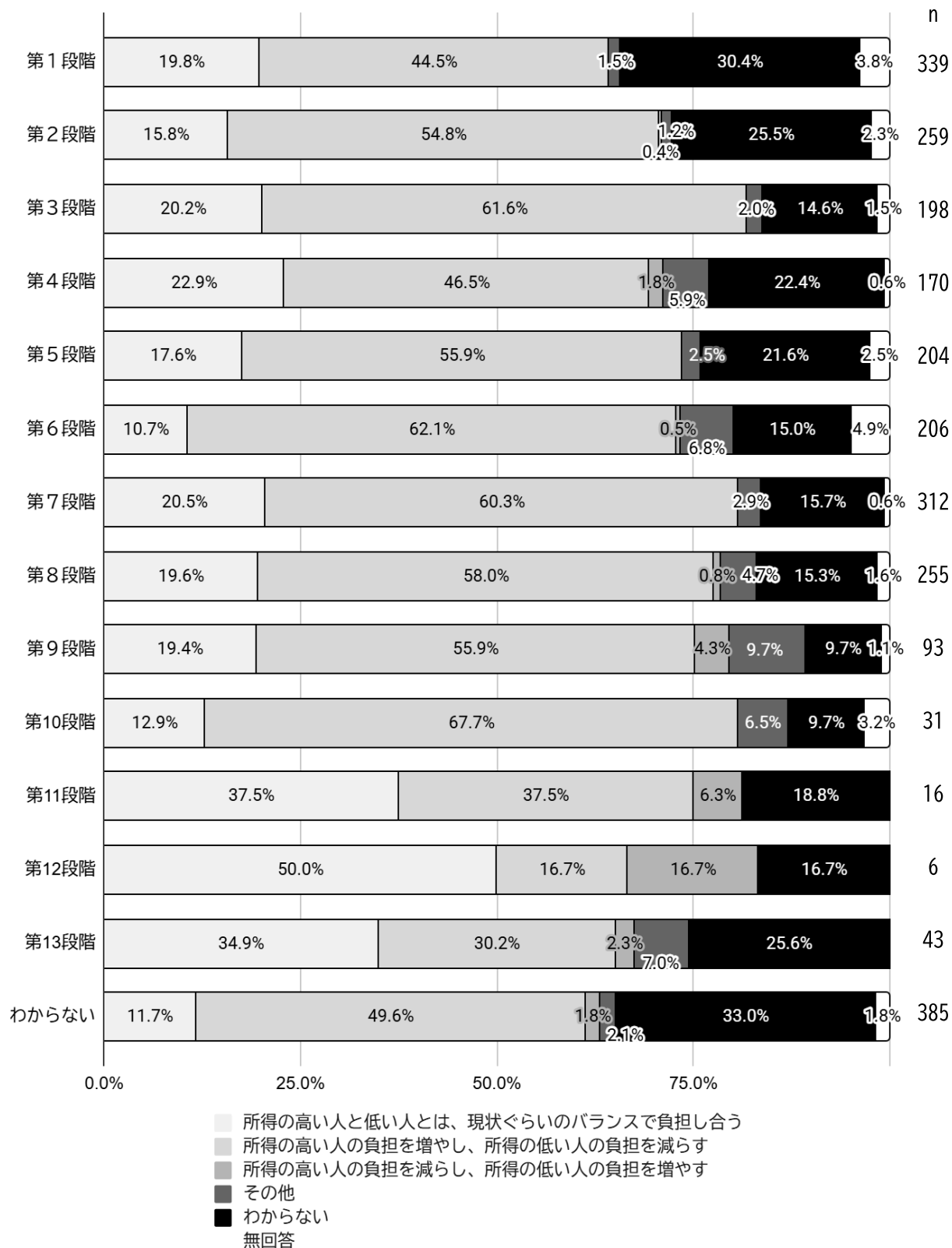
年齢別にみると、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らす」とする割合は「満70～74歳」（58.1%）が最も多く、次いで「満65～69歳」（57.0%）、「満75～79歳」（53.0%）となっている。

問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】 × 問1-4 年齢



保険料段階別にみると、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らす」とする割合は「第10段階」（67.7%）が最も多くなっており、次いで「第6段階」（62.1%）、「第3段階」（61.6%）となっている。

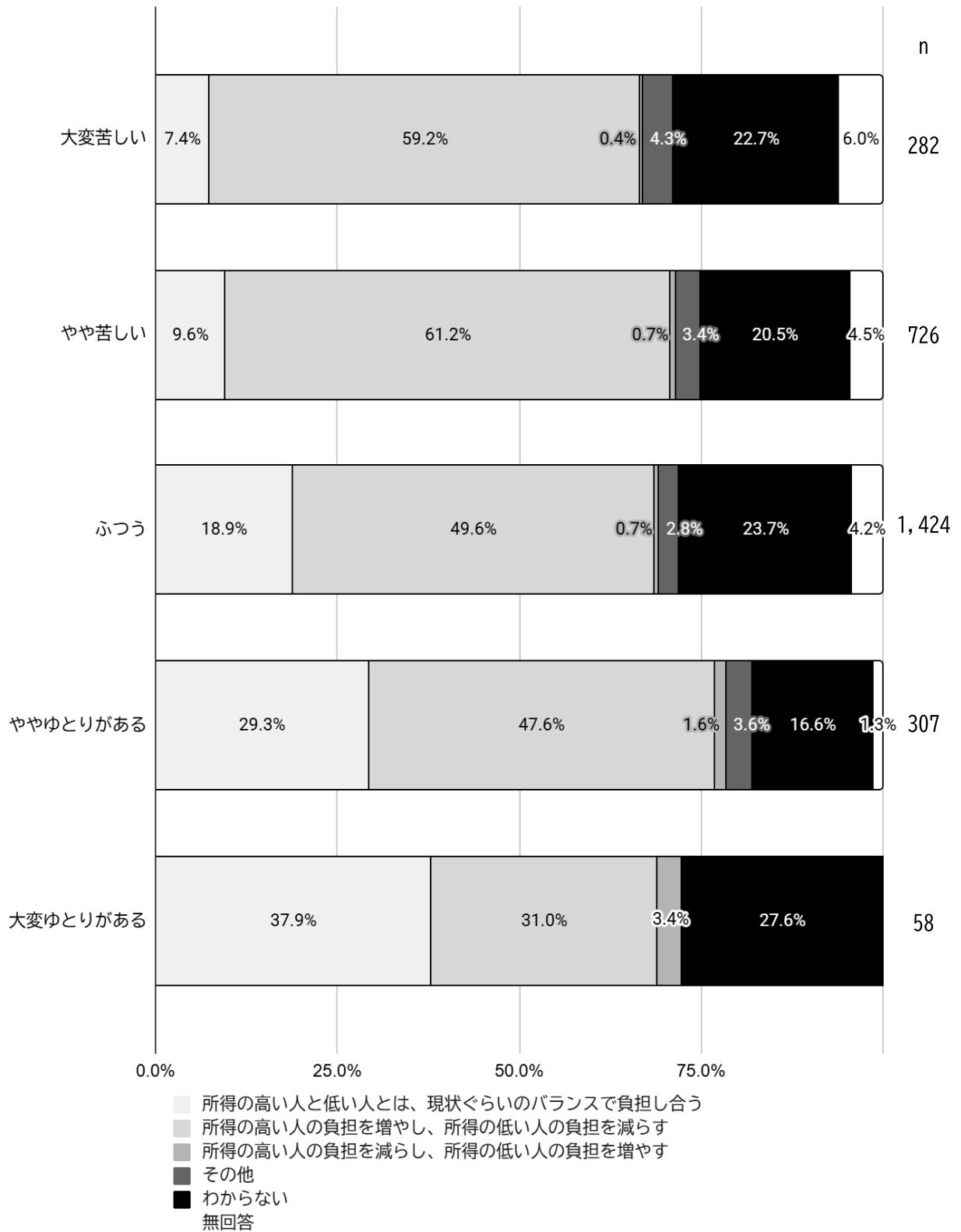
### 問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】 × 問9-1 保険料段階【65歳以上】



2 調査結果（その他）

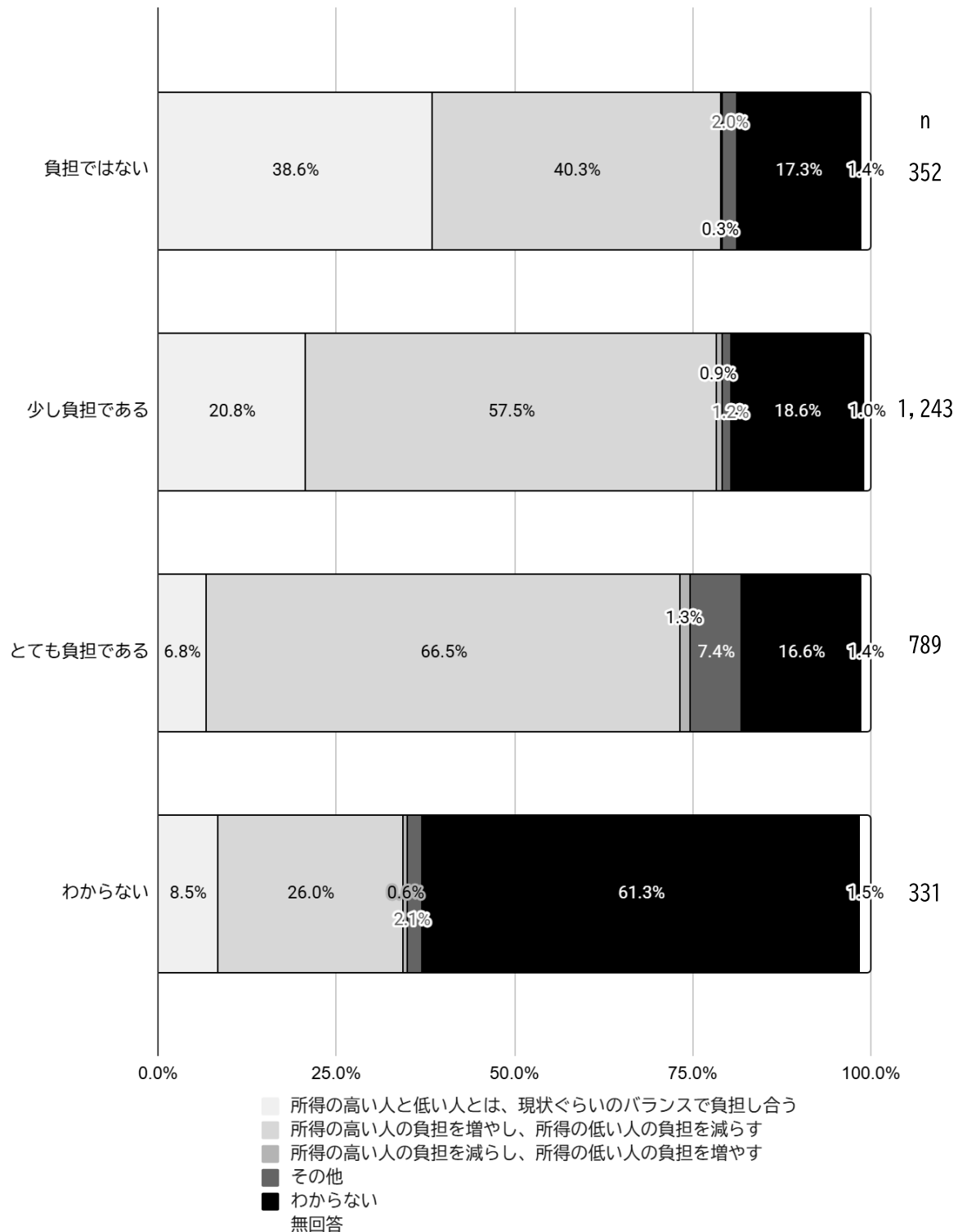
経済状況別にみると、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らす」とする割合は「やや苦しい」と回答した方が最も多く61.2%となっている。

問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】 × 問3-5 経済状況【65歳以上】



保険料の負担感別にみると、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らす」とする割合は「とても負担である」が最も多く66.5%となっている。

問9-3 保険料負担のあり方【65歳以上】 × 問9-2 保険料の負担感【65歳以上】

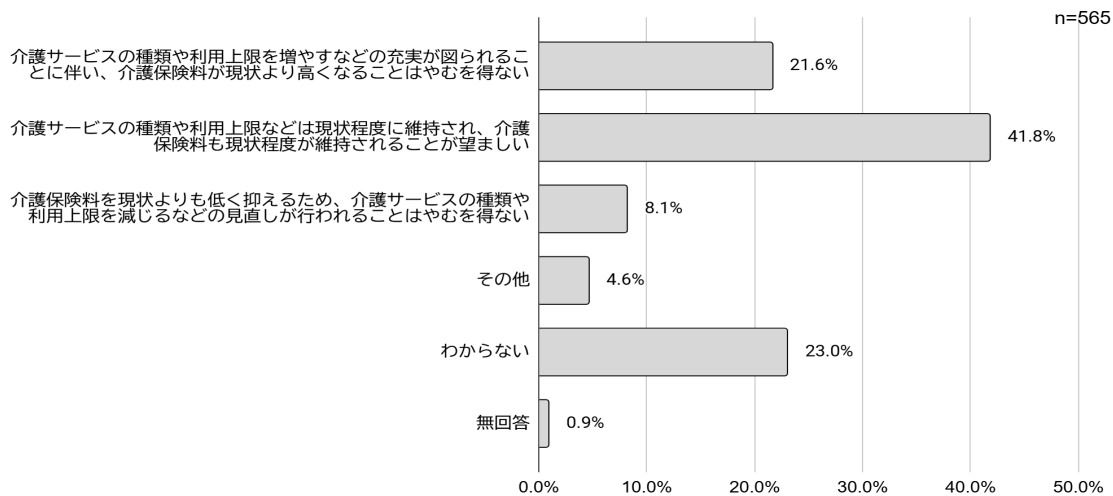


## 問9-4 サービスと保険料の関係

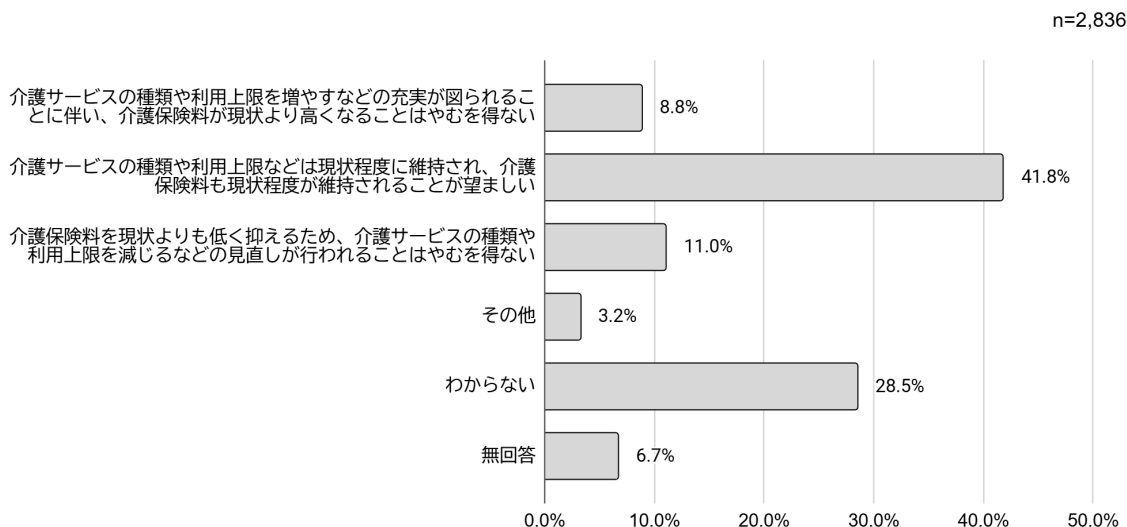
介護保険料は、介護サービスに要する費用などの見込みに基づき、3年ごとに見直されています。介護保険制度における介護サービスと保険料の関係について、あなたはどのように考えますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

介護サービスと介護保険料の関係について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「介護サービスの種類や利用上限などは現状程度に維持され、介護保険料も現状程度が維持されることが望ましい」（41.8%）が最も多くなっている。次いで、「わからない」を除くと、64歳以下は「介護サービスの種類や利用上限を増やすなどの充実が図られることに伴い、介護保険料が現状より高くなることはやむを得ない」（21.6%）、65歳以上は「介護保険料を現状よりも低く抑えるため、介護サービスの種類や利用上限を減じるなどの見直しが行われることはやむを得ない」（11.0%）となっている。

### 問9-4 サービスと保険料の関係 40歳以上64歳以下



### 65歳以上



## 問9-5 高齢者の人権尊重

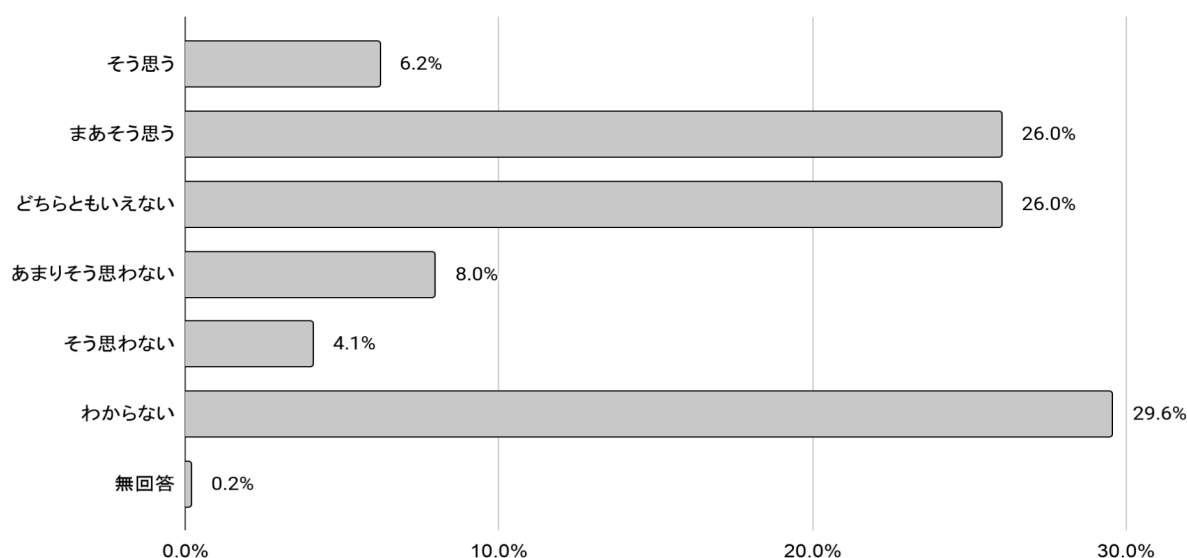
札幌市では、高齢者の人権が尊重され、権利が守られていると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

札幌市では、高齢者の人権が尊重され、権利が守られているかを尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は64歳以下で32.2%、65歳以上では33.9%となっている。

一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は64歳以下で12.1%、65歳以上では16.6%となっている。

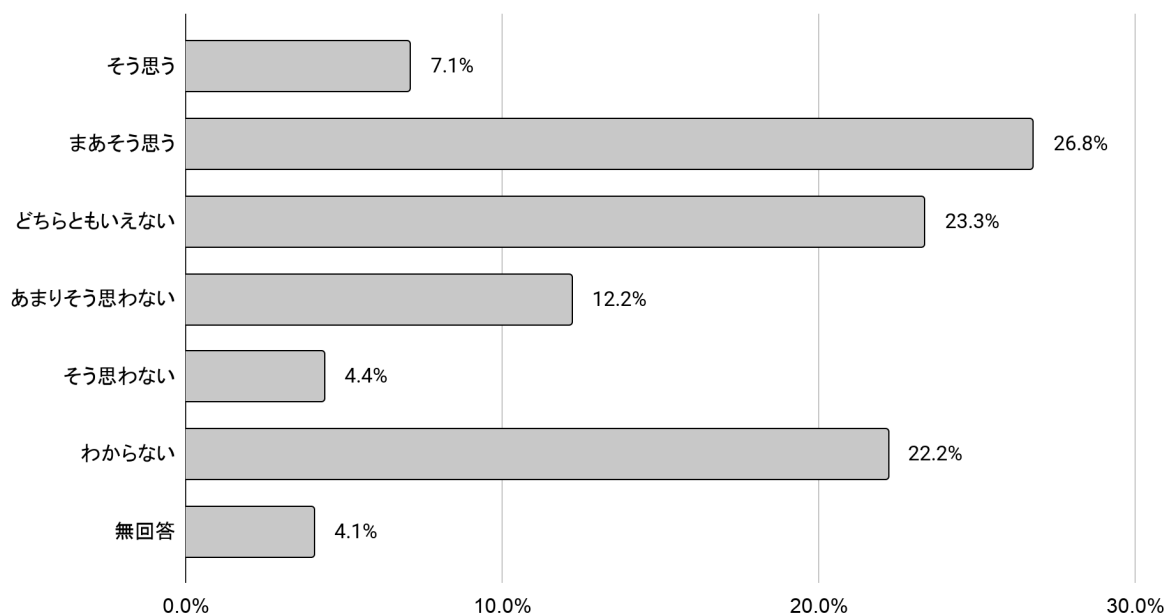
### 問9-5 高齢者の人権尊重 40歳以上64歳以下

n=565



### 65歳以上

n=2,836

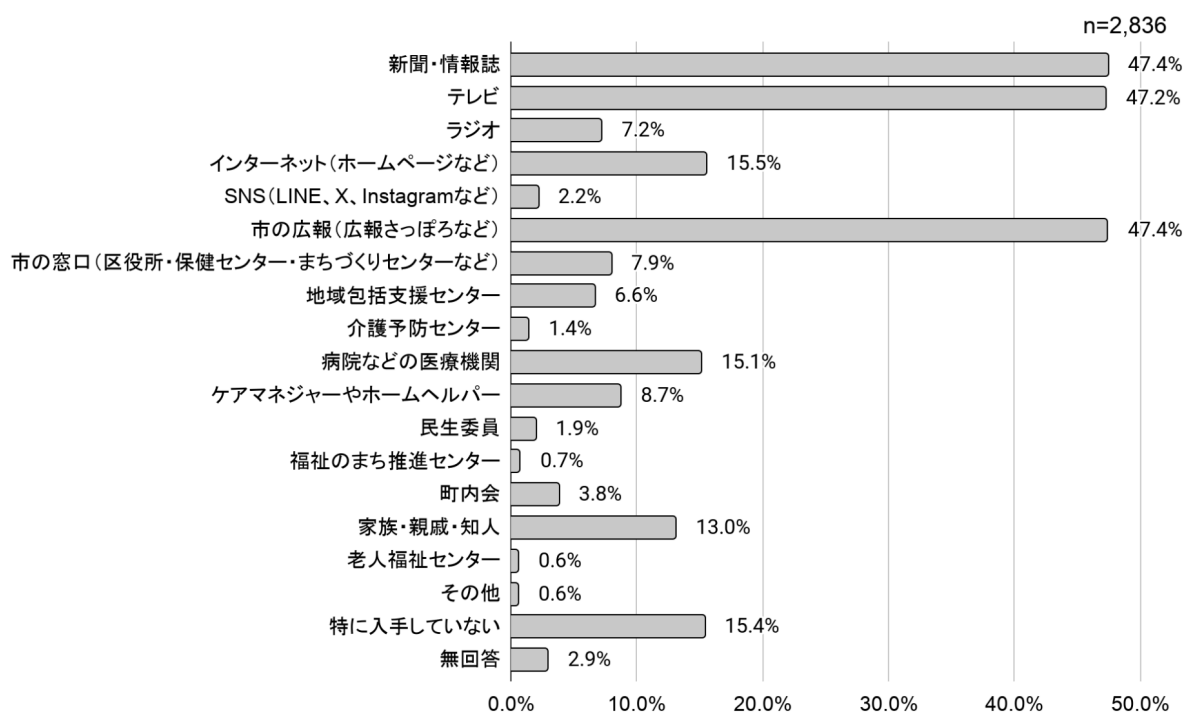


問9-6 サービス情報の入手先【65歳以上】（複数回答）

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報は、主にどこから入手していますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているか尋ねたところ、「新聞・情報誌」、「市の広報（広報さっぽろなど）」（47.4%）が最も多く、次いで「テレビ」（47.2%）、「インターネット（ホームページなど）」（15.5%）となっている。

問9-6 サービス情報の入手先【65歳以上】（複数回答）



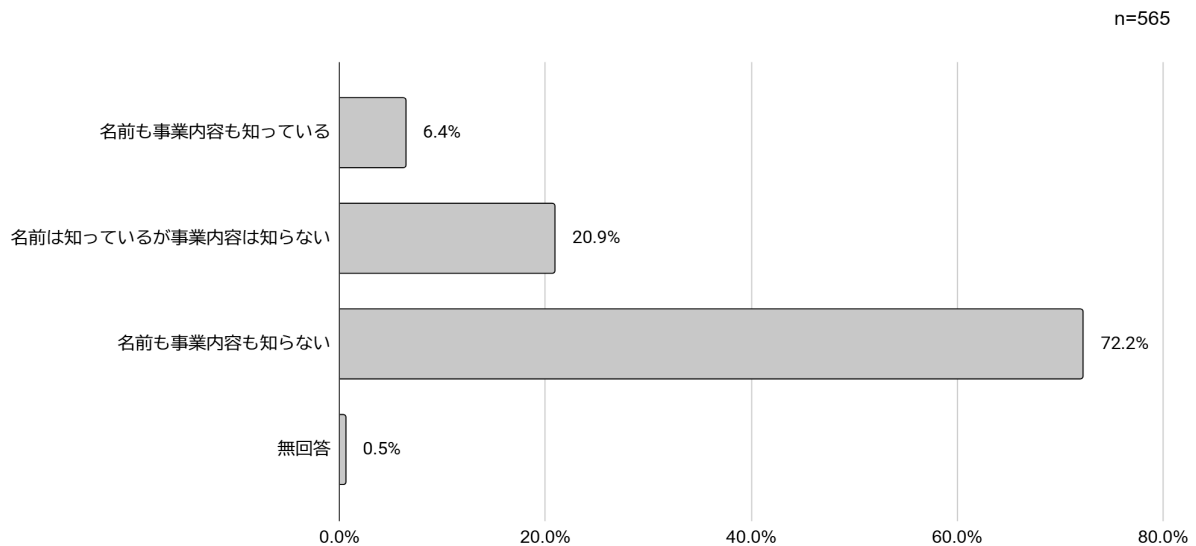
### 問9-7 生活支援コーディネーターの認知度

生活支援コーディネーターは、高齢者を中心とした生活支援のニーズ（買い物や病院の付き添いなど）を把握し、そのニーズに対応するため関係機関や団体等と連携して、高齢者を地域で支え合う体制づくりを行っています。

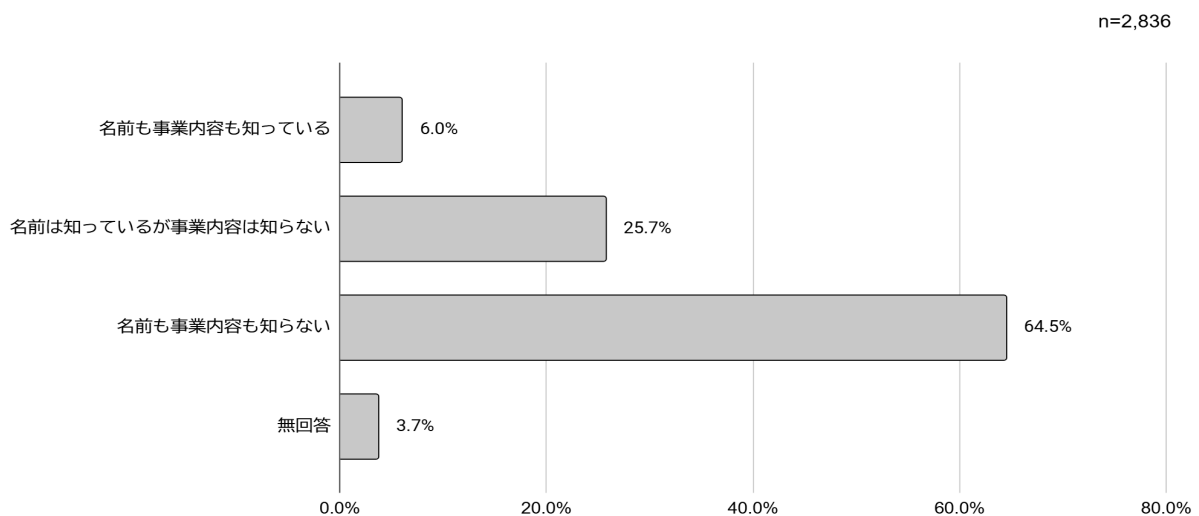
あなたは、生活支援コーディネーターを知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

生活支援コーディネーターについて知っているかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「名前も事業内容も知らない」が最も多く、64歳以下で72.2%、65歳以上で64.5%となっている。

#### 問9-7 生活支援コーディネーターの認知度 40歳以上64歳以下



#### 65歳以上

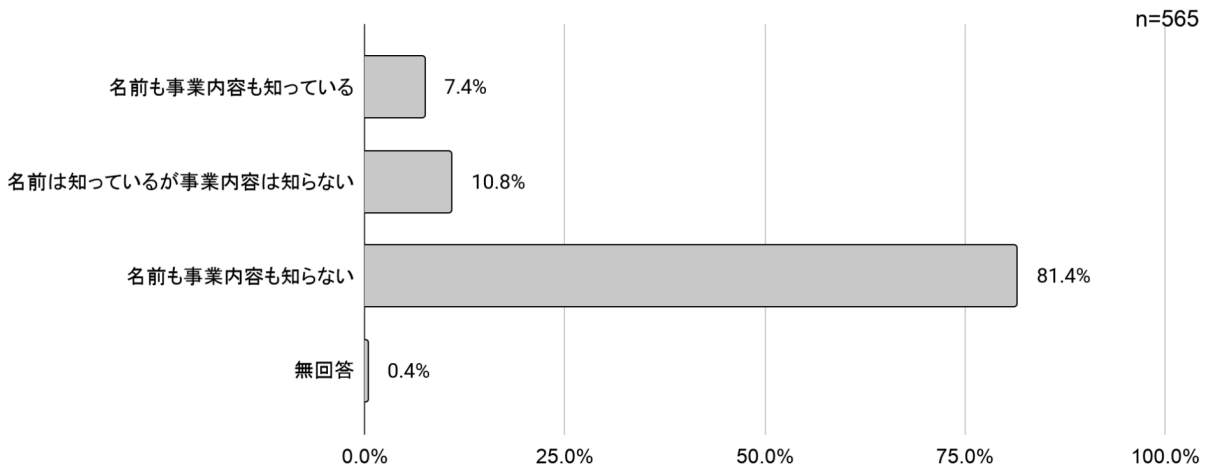


## 問9-8 高齢者あんしんコール事業の認知度

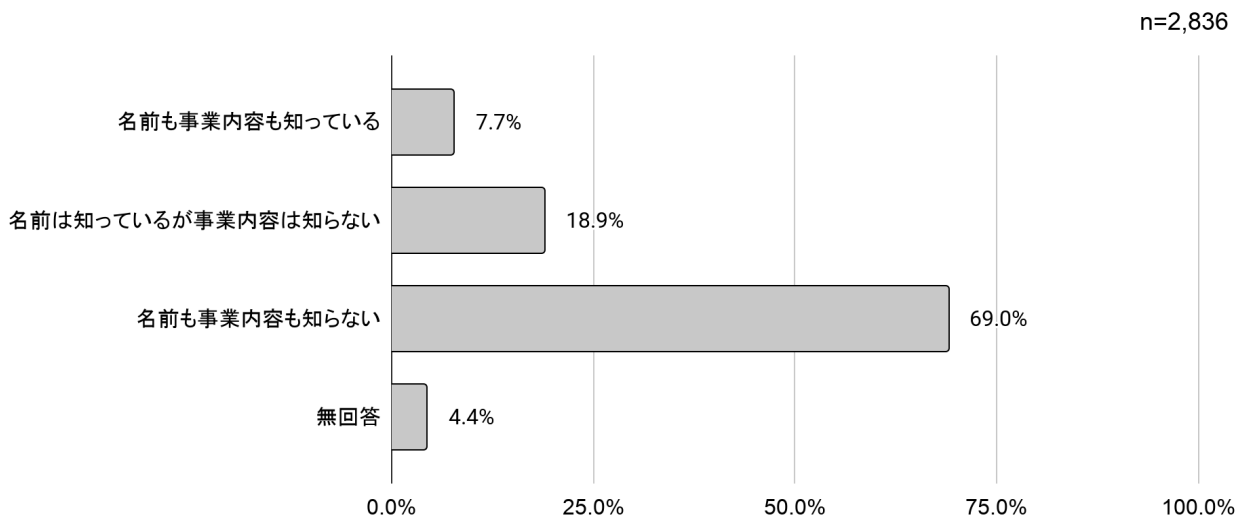
高齢者あんしんコール事業は、心身に不安のあるひとり暮らし高齢者などに専用の通報機器を貸与し、健康などの相談に24時間対応するほか、受信センターから定期的な電話掛けを行います。また、急病などの緊急時は、受信センターが救急車を要請するなど状況に応じた支援を行い、高齢者の安心した在宅生活をサポートする事業です。  
 あなたはこの事業を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

高齢者あんしんコール事業について知っているかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「名前も事業内容も知らない」が最も多く、64歳以下で81.4%、65歳以上で69.0%となっている。

### 問9-8 高齢者あんしんコール事業の認知度 40歳以上64歳以下



### 65歳以上

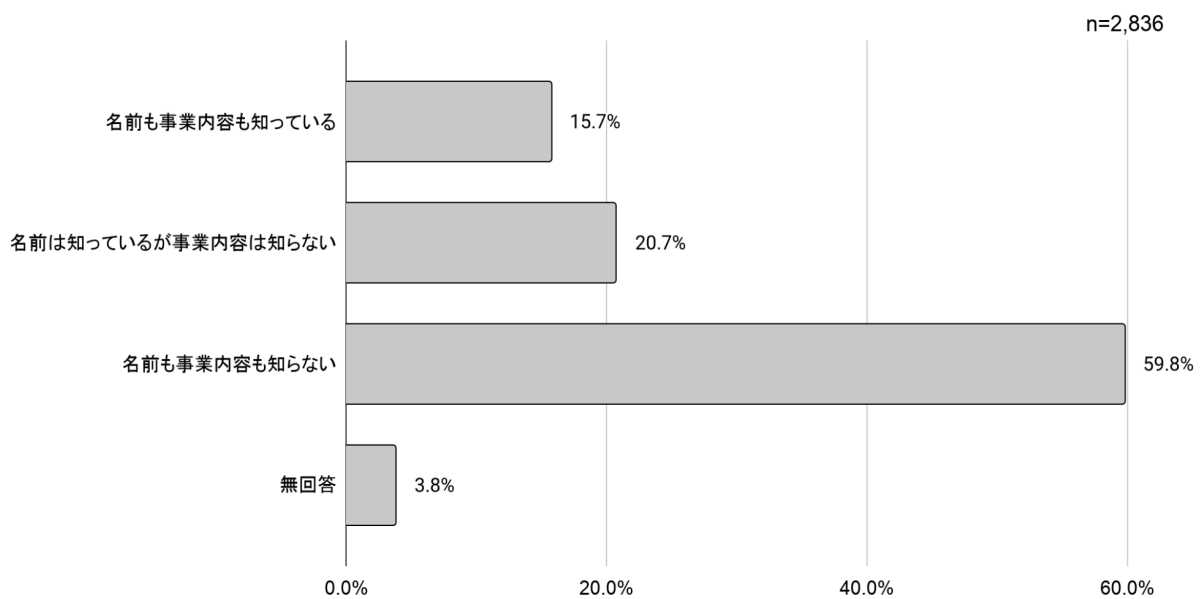


### 問9-9 高齢者配食サービス事業の認知度【65歳以上】

高齢者配食サービス事業は、ひとり暮らしで食事の支度が困難な高齢者に対して、食事に関してできる限り自立した生活が営めるよう、食に関する利用調整を行い、栄養のバランスがとれた食事を届けるとともに、安否を確認する事業です。  
あなたはこの事業を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

高齢者配食サービス事業について知っているかを尋ねたところ、「名前も事業内容も知らない」が最も多く、59.8%となっている。

#### 問9-9 高齢者配食サービス事業の認知度【65歳以上】

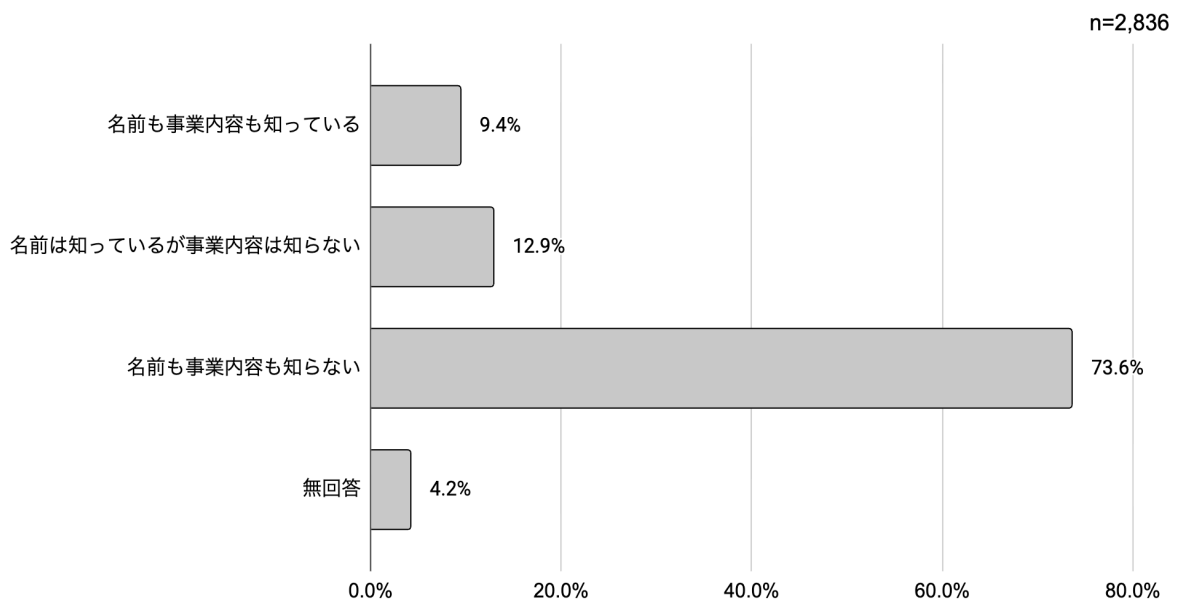


### 問9-10 おむつサービス事業の認知度【65歳以上】

高齢者等おむつサービス事業は、ねたきりまたは認知症などにより常時おむつを必要とする在宅の高齢者に対して、紙おむつを支給し、本人及び介護にあたる家族などの日常生活における負担軽減や保健衛生の向上を図る事業です。  
あなたはこの事業を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

高齢者等おむつサービス事業について知っているかを尋ねたところ、「名前も事業内容も知らない」が最も多く、73.6%となっている。

#### 問9-10 おむつサービス事業の認知度【65歳以上】

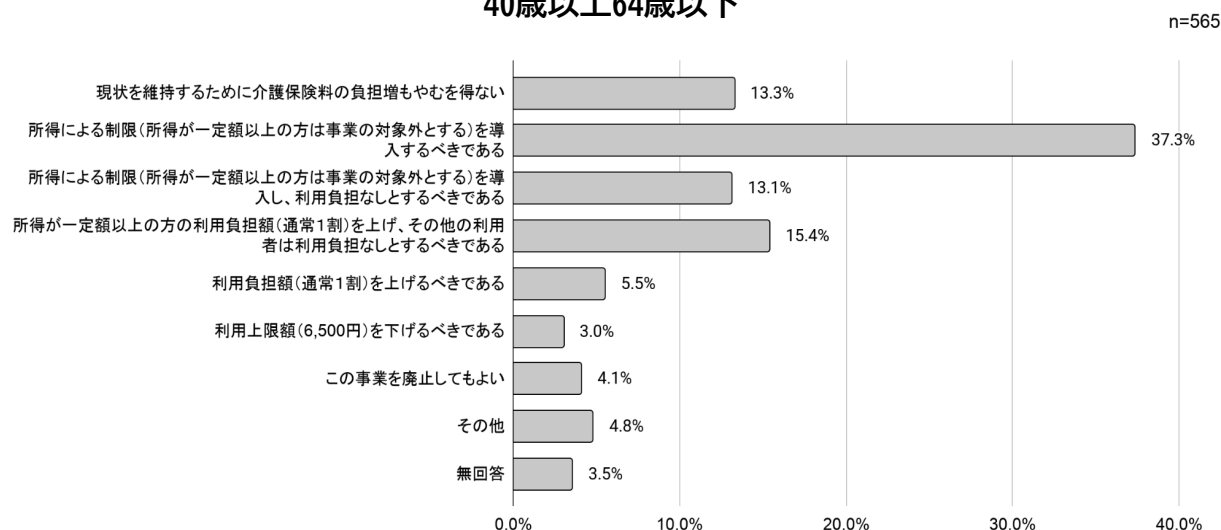


## 問9-11 おむつサービス事業

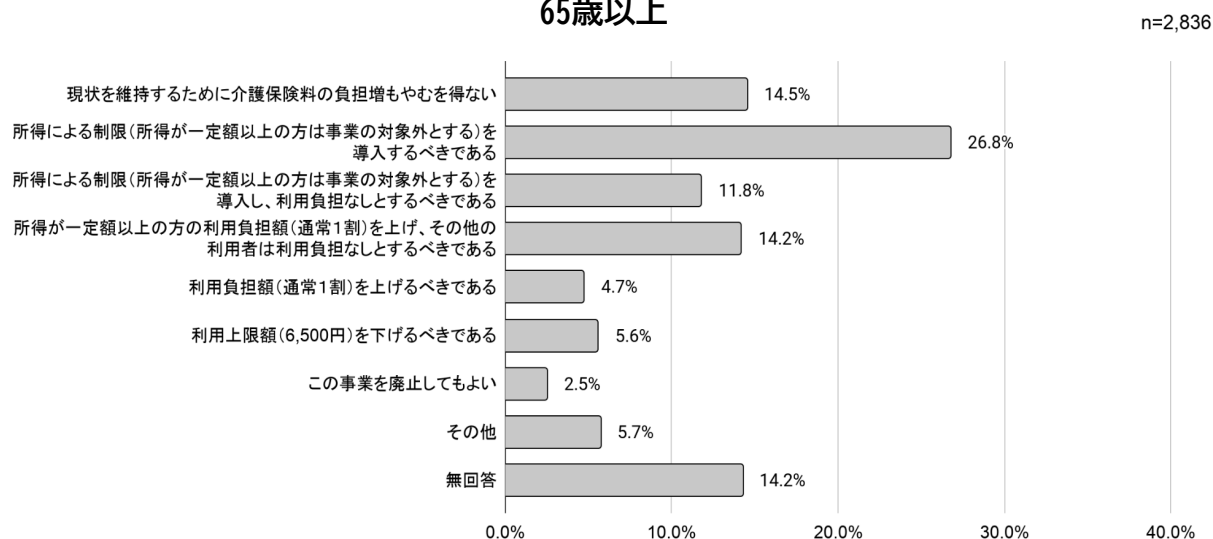
高齢者等おむつサービス事業は、介護保険料により実施しており、要介護3～5で一定の要件を満たした方に、月6,500円以内（対象者は利用額の1割を負担、生活保護受給者は負担なし）で月1回自宅におむつを配達する事業で、高齢化率の上昇に伴い利用者が年々増加しています。

この事業の今後について、あなたはどのように考えますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

高齢者等おむつサービス事業の今後について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「所得による制限（所得が一定額以上の方は事業の対象外とする）を導入すべきである」が最も多く、64歳以下で37.3%、65歳以上で26.8%となっている。

問9-11 おむつサービス事業  
40歳以上64歳以下

## 65歳以上



## 問9-12 今後の調査方法

本アンケートの実施方法について、あなたはどちらの形式が回答しやすいですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

本アンケートの実施方法について回答しやすい形式を尋ねたところ、64歳以下は「どちらでもよい」（39.5%）、65歳以上は「紙のアンケート」（71.8%）が最も多くなっている。

